

北山フロストレイル

2015~2016



立命館大学ワンダーフォーゲル会 OB会

ワンゲル活動の一つの在り方としての
北山クロストレイル

S35卒 鎌田克則

この北山クロストレイルの発案の動機は、昨年 5 月の現役の新人歓迎の企画でありました。それ以外にも、現役との地図読み講習会やRUWVの創立当初のレクチャー等の依頼を通して、われわれの創立当初目指したものと、現役の目指すものが、どこか違うと感じておりました。

RUWVも、一時は人数が減って廃会寸前の状況にあったと聞いております。それに対しOBも何もしなかった。ここは悔やまれるところです。

そしてOB会が出来た。しかしOB会は現役に遠慮したのか、現役からモーションを受ければ対応するが、積極的に経緯や伝統を伝える努力もしなかった。よって当然目指すところが違うのも当然であります。

それに我々の頃と時代が違う。歳も違う。全く爺さんと孫の年齢差そのもの。そのことは百も承知しながらも、我々が一番大切にしていたもの、それが引き継がれていないと言うのは、何としても淋しい。それほど我々の時代は燃えたし、求めた。その我々が求めたものを少しでも伝えたい。遅ればせながらそれを態度で示したい。それが北山クロストレイルなのだ。

ワンゲル活動はこうあるべきと押し付ける積もりは毛頭ない。我々はこのようにして来たと言うだけである。

即ち我々が創立当時目指したものは、一口で言えば独自性、オリジナリティー。自然の中で、自由とでも言おうか、それぞれ創意工夫して、そこに一寸インテリジェンスとアートを加えたプランニング、そしてその目的を達成し、安全に帰着する。そして日々の活力を得る。それを競うが故に特にパーワンを重視したのだ。

言うなれば、自由を前提にして、誰も真似の出来ない、だれもが思い付かない、どちらかというと、未知の部分がある、探検的要素がある、時期の選択や、ルート、用具の選択に一味加えたもの。大層だが自由なワンデリングに一寸知的、芸術性、独自性、言うなればスマートさを加えた計画が上なのだ。既存の、誰もが行く百名山や〇〇トレイル、道標をたどって歩くのは中。自分では何も考えず、計画もせず、誰かが立てた計画に唯付いて行くだけは下、と当時は考えていた。当然それぞれ考えが違うから、安全さえ確保出来れば自由であるから、色んな計画が出る。それぞれクルーを組んで競って出ていく。これがパーワンであり、RUWVはそれらの出航、帰港する、そして情報交換するヨットハーバーだったのだ

同じ人物、風景、静物をキャンバスに描いても、モジリアーニの人物、ゴッホの風景、武者小路実篤の静物はそれぞれ違うだろう。言うなればその違いを尊ぶセンスが何処かに有って欲しい。それを競う環境が育ってほしい。解る人には解る。その解る人になってもらいたい。少なくともそれを尊ぶ世界の存在を知ってほしい。それにはそのセンスを育てる環境があり、その上に、飽くなき追及、研鑽、情報収集に尽きる。

今回はそれらの追及、体験を重ねたOB達が、図らずも一致して、北山という大きなキャンバスに、我々独自の絵を描いたのが北山クロストレイルなのである。

計画の大筋を見てほしい。北山の数あるトレイルを繋いだとも見えなくもない。しかしそれは結果から言えることであって、大堰川から琵琶湖迄。鞍馬・花背から日本海迄、出発点と到着点は決まっている。後は自由に、我々なりの理想を、思いをこのルートに込めた。考えるとこの自由というところが、他大学WVと比べて、特にRUWVの原点であったと思い出す。

渡り鳥は出発点と到着点は決まっている。しかしその飛ぶルートは自由である。それをよりスマートに、より広く飛びたい。

我々は思うまま、常に相談しながら北山を自由に歩いた。それを理解して北山クロストレイルの報告を見てほしい。

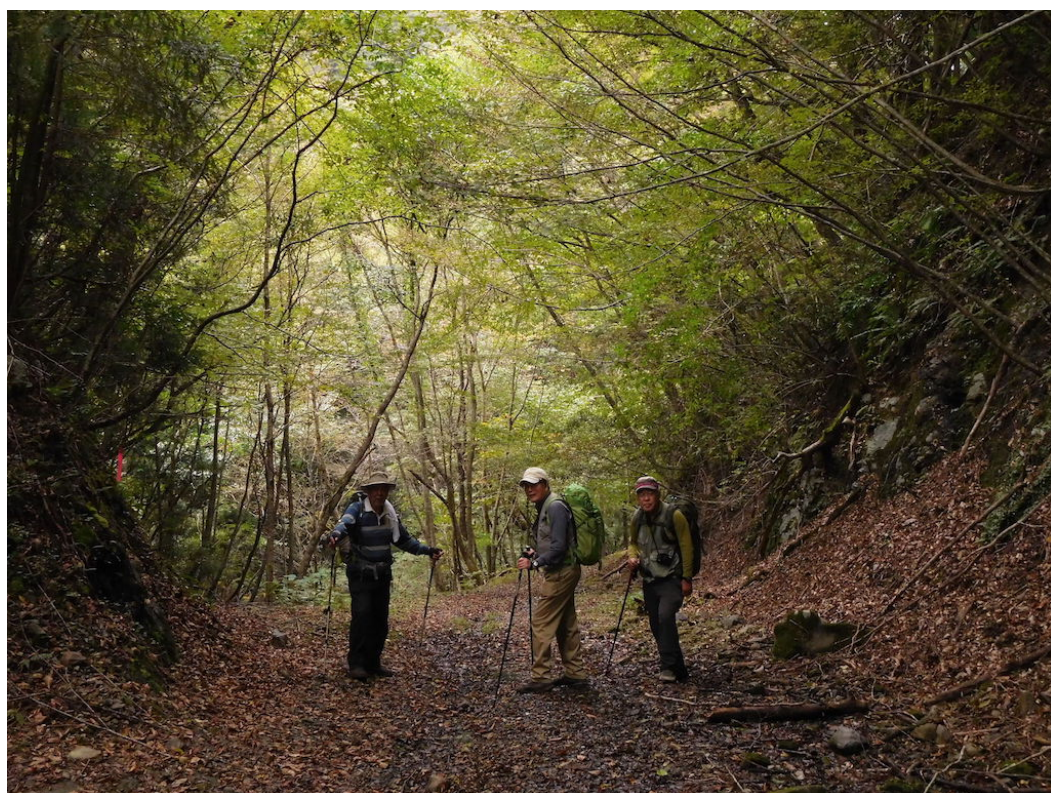
そして最後完走したときの喜び。この歳になって正直忘れ得ない幸せを感じた。その余韻がいつまでも続く。この報告集もその一環である。

真の幸せは「達成感」であると読んだことがある。そのことを改めて実感した。レベルの高低ではない。自分なりのルートを、努力して狙った通り完走出来たのである。そのことを感じて頂ければ、望外の喜びであります。

なおこの計画には、陰で送迎等支援頂いた方々が居られます。栗原さん、村田さん、ここに心より感謝する次第です。

所で、既にもう次の計画が沸々と煮え初めて居ります。今度は北山も含め、近畿一円の、名ルート他、多彩で幅広い計画です。どちらかと言えば親睦がメインです。その名は「Enjoy walking」。

今夏、参加メンバーと映画「ビクトレイル」を見て思い付いたのです。来春までの大凡の計画を発表致しております。是非ご注目ください。



目 次

	ページ
第一回クロストレイル	1
愛宕山周辺	
第二回トレイル	4
滝又の滝から茶吞峠	
第三回トレイル	9
茶吞峠～城丹国境尾根～棧敷ヶ岳	
番外編(偵察コース)	15
第三回トレイル 下見その1	18
祖父谷峠周辺の尾根筋	
第三回トレイル 下見その2	22
灰屋川源流	
第四回トレイル	27
花背高原～大原	
第五回トレイル	30
大原～比叡山	
横断コース完歩達成	
第六回トレイル	36
久多～小浜	
第七回トレイル	49
花背峠～久多	

縦断コース完歩達成

番外編

第一回読図勉強会	56
座学、衣笠校舎から沢池	
第二回読図勉強会	61
二ノ瀬ユリ～芹生峠～旧花背峠～鞍馬	

北山クロストレイルを歩き終えて

北山クロストレイルの踏み跡	68
「北山クロストレイル」 歩き終えた感想	70

第一回トレイル(愛宕山周辺)

山行日 2015年5月30日(土)
参加者 S35卒鎌田 克則、S37卒森村 征男、打越 啓祐、S39卒木村 恒夫
S45卒広瀬 孝慈、S47卒西尾 憲次、S48卒岩切 徹
コース 保津峡コース
保津峡駅一米街道一表山道合流一愛宕山
八木・原コース
原一林道合流一スキー場一愛宕山
合流後コース
愛宕山一愛宕山三角点一首無地蔵一ダルマ峠一ウジウジ峠一
ウジウジ谷への分岐一愛宕裏街道一細野口

「北山クロストレイル」を発案されたRUWV創設者 S35卒鎌田克則さんは、急用で不参加(後日完歩)と成りましたが、

予定通り、第一回トレイル(愛宕山周辺)を歩いて来ました。

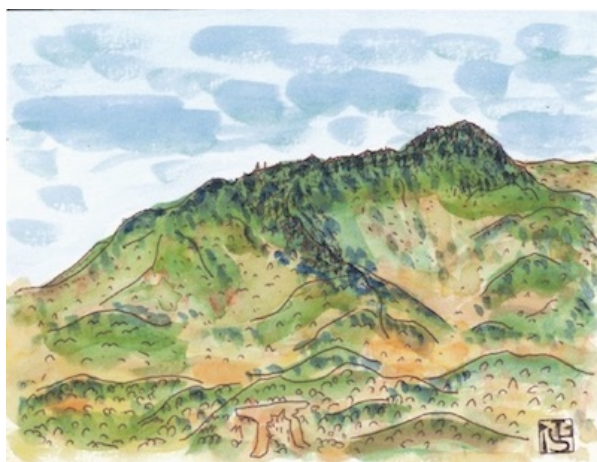
愛宕山へは、保津峡コース、八木・原コースの2コースから登り、愛宕神社階段下の休憩場で合流。その後、愛宕山三角点、首無地蔵、ダルマ峠、ウジウジ峠を経由して、愛宕裏街道を愛宕道に下山して、細野から帰京するコースです。

このコースを決定する前に、2回の下見を行なった。

1回目は、愛宕山への上りがきついで、楽なコースはないかと越畑一芦見峠一水路跡一龍の小屋一愛宕山コースを下見した。コースとしては、緩やかな登りで申し分なかったが、水路跡の道が崩壊しているところがあり断念した。

2回目は、愛宕裏街道の長い林道を避ける道はないかと愛宕山一サカサマ峠一松尾峠一朝日峯一梅の木谷コースを下見した。朝日峯までは問題ないが、朝日峯から梅の木谷へは、踏み跡もなく急な藪漕ぎで、時間的にも厳しいと判断した。

シニアが多く、かつ年齢差、体力差が大きいと色んなことを考慮してコース設定が必要と悟った。結果的には、平凡なコースとなったが、ここに至るまでの経緯を大切にして、今後のコース設定に活かしていきたい。



保津峡コース

保津峡駅一米街道一表山道合流一愛宕山

駅前の橋を渡って右側すぐの登山口から登山開始。山道がかなり整備されていて、予定より1時間も早く愛宕山に到着。

予定の合流時間まで随分待って頂きました。(コースタイムとしては、もう30分位プラスした計画が良いとの事です)

残念ながら写真がありません。

八木・原コース

原―林道合流―スキー場跡―愛宕山

バス停からすぐの鳥居から参道があり、急傾斜の林道を進む。

しかし、道は悪い。四駆の車ならなんとか登るかもしれませんが、車高が高くないと厳しいです。歩き始めて20分、かなり疲れて早めの休憩です。

スキー場跡までの間に、地図に載っていない水尾、亀岡へ道がありましたが、通行禁止になっています。



予定通り愛宕山休憩所で保津峡コース組みと合流。

愛宕山休憩所で休んでいるとガールスカウトの女性2名が「愛宕山三角点はどこかと？」と聞いてきたので、親切にも案内する事にした。森村さんは、女性に優しく、すぐに仲良くなっていた。

その後、首無し地蔵に向けて下山。



いよいよ覚悟した愛宕裏街道の林道へ向かう。

途中、ダルマ峠の唯一の水場で水分補給。

ウジウジ峠からウジウジ谷への分岐辺りも林道が入り組んでいて、しばし方向を確認して愛宕裏街道に進む。愛宕裏街道は、昔は表参道であったが、京都から参拝するには遠いので、清滝からの参道がつくられたとか。そのため、沢山の巨木の杉がある。

林道は、小石がゴロゴロして歩きにくく、足裏が痛くなって来た。

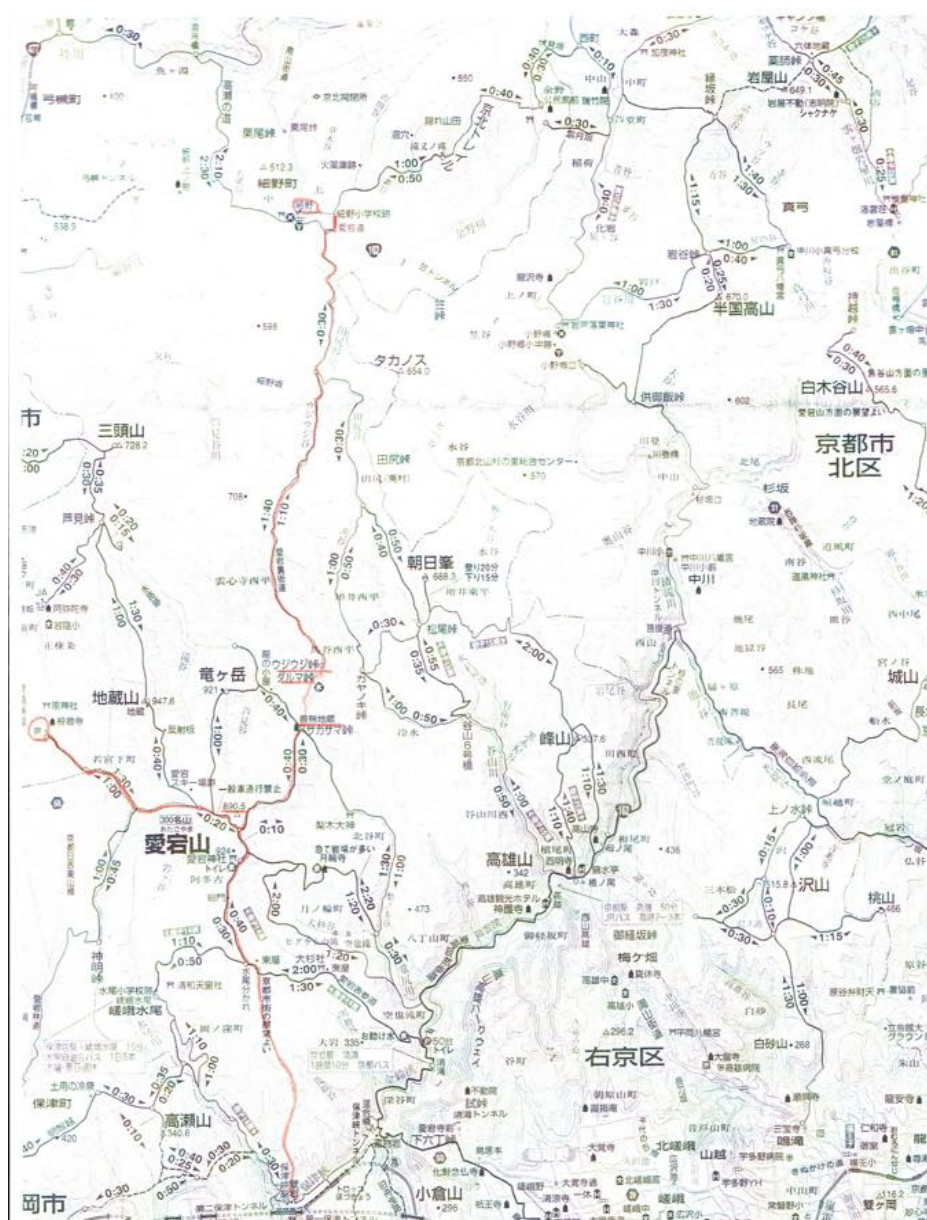
途中でバスの時刻を調べたら15:49のバスに余裕を持って乗れると思ったが、右からの林道になかなか合流せず、位置確認すると予定よりかなり遅れていた。

これで皆さんに休憩を我慢してもらい、歩き続けてやっと10分前にバス停に到着。

皆、足も痛くバテバテでした。



京都駅に戻り、恒例の打ち上げを行いました。
まだ第一回トレイルが済んだばかりなのに、
次回コースも検討したが、結論は出ず御開き
となりました。



第二回トレイル(滝又の滝から茶吞峠)

山行日 2015年6月13日
参加者 S35卒鎌田 克則、S37卒森村 征男、打越 啓祐、S45卒広瀬 孝慈
S47卒西尾 憲次、S48卒岩切 徹
コース 細野口ー滝又の滝分岐ー滝又の滝ー余野分岐ー15分ーP550尾根取り付きー
P550ー河原峠(P466)ー東俣取り付きー東俣(P670.5)迂回ー
茶吞峠ー鳴野堂・竜ヶ坂ー中江橋

いやー、実に楽しい山行でした。

新人に戻り、藪漕ぎをしながら地図と磁石で読図、わいわい言いながら方向を確認して歩きましたので疲れを感じる暇も、コースを外れることもなく、予定より短時間で歩き通すことができました。出来上がった規定のルート歩くのも良いですが、自分達でルートを作り、道がない所は昔に戻り藪漕ぎしながらの山行も楽しいものです。

京都＝細野口

木村さん、広瀬さん、私は京都駅から、鎌田さん、打越さんは四条大宮、森村さんは二条、西尾さんは千本丸太町から乗車されて周山 細野口で合流。



細野口ー滝又の滝分岐ー滝又の滝

滝又の滝への道は、トンネルができたので随分変わり、細野口から京北トレイルを歩くように変わっている。途中、なんと凱旋門見たいな滝又の滝への道を造成していた。観光目当てなのだろうけど、なんでこんな所にと腹ただしく思う。洞窟には、石仏を設置するのだろう。



滝又の滝―余野分岐―P550尾根取り付き

余野分岐で今後のルートを相談。

今回の核心部(丸印)の藪漕ぎコース。

予定通りP550に登り尾根筋を河原峠まで行くか、ピークを避けてP550の手前の尾根筋を歩き、伏見坂方面へショートカットして行くか検討。

とりあえずP550に登り、そこでもう一度判断することになった。

地図にない林道が入り組んでいて、取り付きを間違わないように読図をしながら見極める。

P550尾根取り付き―P550

取り付きからは、藪漕ぎ開始でP550に直登。P550直下で突然林道が現れてびっくり。どこかで見過ごした林道が上がってきているのだろう。林道を横断して、直登して間もなくP550到着。当初のコースを設定した者にとって安堵した。小休止をした後、尾根を外さないように今まで以上に慎重に読図を繰り返しながら河原峠を目指す。



P550―河原峠(P466)

尾根道を外すことなく順調に進み、早めの昼食。最後の鉄塔を超えた所でネットが張って有り、最後の下りコース取りに苦労したが、無事河原峠への分岐へ到着。

予定よりもずいぶん早く河原峠に到着した。

河原峠―東俣取り付き―東俣(P670.5)迂回―茶呑峠

河原峠は民家ができている、東俣への谷道が分からなくなっている。

結局、ゲートがある民家の中を突き抜けて谷に入っていく。(安井幼稚園の所を右折し、民家の中にを通る)地図に載っている東俣への取付口が分からないまま谷を詰めて行った。

私は気づかなかったが、「東俣から茶吞峠への黄色道標」が有ったらしいが東俣への道が悪く、谷を詰めて尾根を直登、東俣を迂回して一気に稜線に出ることになった。

ここまでくれば、茶吞峠は目の先。
皆に安堵と余裕が出てきた。
茶吞峠には、予定より30分も早く到着したので、大休止。



茶吞峠ー鳴野堂・竜ヶ坂ー中江橋

後は、起伏がない道を淡々と中江橋まで下っていく。鳴野堂には、二石仏が有った。

中江橋==周山==京都

中江橋でタクシーを呼んで、ウッディー京北まで戻り、JRバスにて帰京。
今回は、懐かしい四条大宮の王将1号店で反省会を行いお開きとなりました。

次回は、茶吞峠から城丹国境尾根を栈敷が岳方面に繋ぐことになりました。
開催時期は、8、9月に実施予定です。

帰って調べたら、茶吞峠へのアプローチは、京北から稲荷谷川に沿って林道が茶吞峠まで伸びているので、西ノ谷側から入山するよりも楽な気がします。

参加者のコメント

早速報告を読ませてもらいました。

文章、写真、それに絵、何よりも皆さんお笑顔がすべてを物語っています。

私もあちこち出かけておりますが、ワンデイハイクでこれほど充実した1日を過ごしたことは余りありません。まず体は、頭のとっぺんから足の先まで適度の疲労感と充実感で満たされ、気持ちとしては、我々独自ルートを予定通り完遂した達成感、反省会でのお腹の満足感、それに何しろ財布にやさしい。しかしその根底には、大学時代WVで共通に過ごした体験と数十年後その気力と交友を続けている人脈。とにかく素晴らしかった。何とかこれを続けて、報告し、皆さんや現役の参考に なれば言う事なし。まだまだ楽しめますね。体を鍛えて又参加しましょう。実に楽しかった。

鎌田克則

色々と刺激を受け充実した日が過ごせて感謝しております。 鎌田さんの意見に同感です。引き続き宜しく。

木村 恒夫

お疲れ様でした。

高齢者の新人合宿 1 日目のような感じでした。読図の大切さを実感しました。

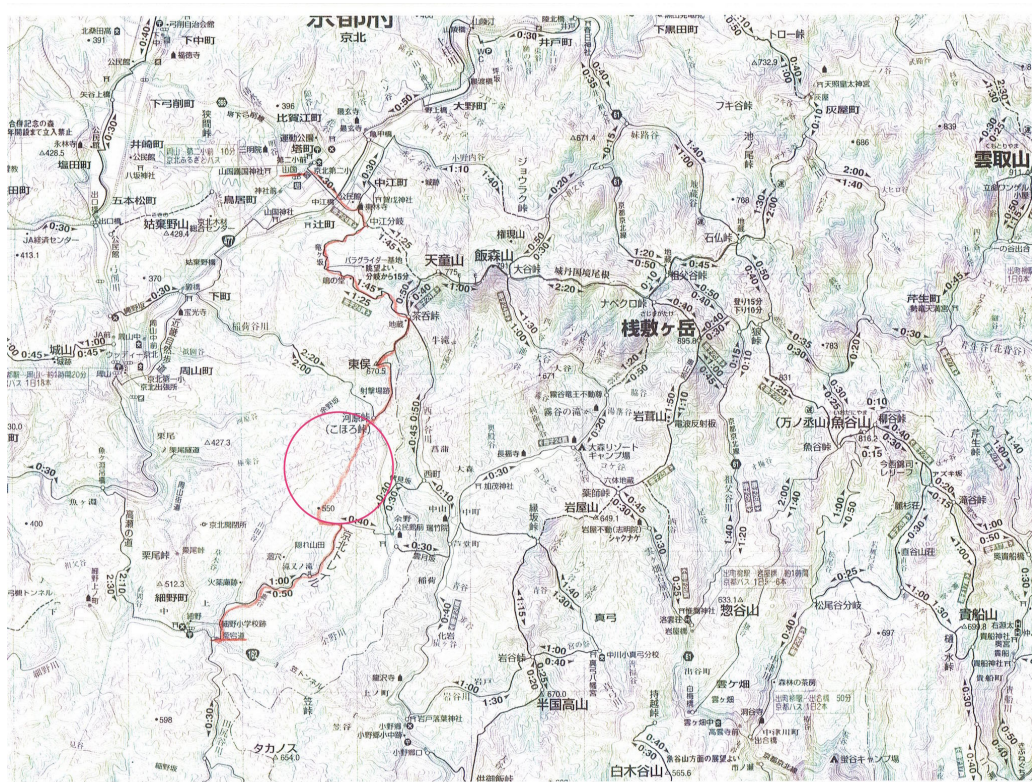
次回が楽しみです。

お疲れ様でした。現役の頃の新人合宿を思い出していました。フワフワの落ち葉の上を歩いていると心身共に癒されます。私も大満足でした。 これからも」よろしく お願いします。

広瀬 孝慈

来年は80才になるという、又先日は体調を崩しまだ完調でもない鎌田先輩を先導に、久しぶりに地図と磁石を頼りに目的のピークをめざし、現実には地図にない林道や最近に開発された林道もあり、造成されて谷は消えて水路が隠れてしまい大変でしたが、何とか修正しながら目的の茶吞峠へたどり着きました。 国土地理院の地図は、時として修正がされずの道もあり、実感としてはピークの位置や山道の入口など修正してない部分もあり、兎に角、コースの設定をした岩切君の意見を尊重し、尾根へ出れば必ずケモノ道があるか、山道があると言い、ただ設定のコースを外れずに探すことが大事と考えました。 それにしても、今回のメンバー 7 人中 4 人は後期高齢者が大学時代に戻った如く、多少は体の衰えは致し方ないとしても心は意気揚々の若者でした。

森村 征男



第三回トレイル(茶吞峠～城丹国境尾根～棧敷ヶ岳)

山行日 2015年10月 3 日
参加者 S35卒鎌田 克則、S37卒 森村 征男、打越 啓祐、
S47卒 西尾 憲次、S48卒 岩切 徹
コース アプローチ
JRバス京都駅発 6 時50分発で周山へ
周山からタクシーで稲荷谷川のハングライダー道分岐着 8 時30分

登山コース(約 8 時間の行程)

ハングライダー分岐ー茶吞峠ー天童ー飯森山ー城丹国境尾根ー
ナベクロ峠

ナベクロ峠で 2 コースに分かれる。

縦走コース (木村、広瀬、西尾、岩切)

ナベクロ峠ー薬師峠ー岩屋不動(志明院)ータクシー

偵察コース (鎌田、森村、打越、村田)

ナベクロ峠ー祖父谷川ーオ梅谷偵察ー岩屋橋で縦走コースと合流してタクシー

今回の実行コースを決定する前に、山小屋まで1日で行けないかとの意見があった。
” どんなに頑張っても1日では無理。では、灰屋川源流下ったらどうだ。” 等の意見
も有り、下見をすることになった。(詳細は、別項参照)

茶吞峠から城丹国境尾根を歩き、ナベクロ峠、魚谷、灰屋川源流を抜けて、芹生集落
に出て山小屋に向かうルートの確認が取れた事、山行予定日が雨でずれて、渡渉を
するには時期が悪すぎる。その結果、今回のコースとなりました。



予約していたタクシーで稲荷谷川のハングライダー道分岐に向かう。

運転手は、第二回トレイルの時に乗ったタクシーの運転手と同じで、運転手も覚えていて和気藹々で行く。

タクシー代が3000円、非常に安い。お互いにやにやして支払う。

ここから先は、下見をしているので間違いなく茶吞峠に向かい40分、思ったより早く着いた。長い行程で迎車タクシーの時間を気にしての山行なので助かった。

良いウォーミングアップになった。

今日は、最初から難関、標高差230Mの天童山への直登が始まる。



平均年齢72歳とは思えないペースでどんどん高度を上げて、登り切った所で小休止。愛宕山方面が綺麗に見える。天童山へは、柵沿いに沿って歩きコースタイム10分遅れで到着。驚くべき頑張りでした。これで本日の予想タイムが見えてきた。



一旦下って登り返して飯森山にアッという間に到着。しかし、頂上と思うけど標識がないので確信がない。周りを見渡していると「ゴミは必ず持ち帰ろう」の看板に小さくマジックで「飯森山」と書いてあるを見つけた。城丹国境尾根の主ピークなのにこれはない。今の京都の山は、京都一周トレイルコース以外は、ほとんど手入れされていない現状の現れです。ここで早めの昼食をとる。



いよいよ、城丹国境尾根である。もう一つ北側の若狭国境尾根を歩いた経験はあるが、ここを歩いた記憶がない。しかも、コースタイムが長いので出発前に皆さんに「2時間20分で歩いてください」とお願いして出発。ここまで余裕の時間を貯めていたが、長いコースですので一步間違えると持ちタイムがなくなり、タクシーの待ち合わせ時間が気になる。しかし、アップダウンが続くコースと調べていたが、ここまでのアップダウンと比べて優しく、予定より早くナベクロ峠に到着。気抜けすると同時にタクシーの時間には、十分に間に合うとの確信を持った。



峠の周りが荒れていて道らしい道もなく、道標も見当たらない。「祖父谷峠」と「栈敷ヶ岳」の道標を見て受けて間違いなことを確信する。その内、木の上の方にカマボコ板位の道標を見つける。出発前の資料では、立派な道標あると思っていたが拡大された写真であった。道標が有っても道が見えないので、その道標の示す先が正しいか判断つかない。



ここで、2つのグループに別れて、

- ・当初通り 棧敷ヶ岳から薬師峠、岩屋不動の縦走コースと
- ・祖父谷川～オ梅谷偵察～岩屋橋の偵察コースに別れる。

偵察コースについては、別項で報告します。



棧敷ヶ岳コースは、油断してきちんと読図しないで進んだので入り口の尾根道を間違えた。歩き始めて、すぐに道が荒れすぎているので違うと思うも、方向が間違っていないので半信半疑進む。すぐに尾根が切れていることに気づき、慌てて元に戻る。ロスタイム20分、遅れを取り戻すために西尾さんがどんどんスピードを上げて登って行く。ペースが早いと思いながらも距離が短いのでついて行き、棧敷ヶ岳に5分遅れで到着。やれやれで有る。このあとも道が荒れていて何度も地図で確認をしながら進む。途中、林道が上がってきて登山道を分断していて、訳がわからなくなる。(おそらくこの林道は、このあとの鎌田さんたちの偵察グループが遭遇したハプニングで運んでもらった林道だと思います。)

薬師峠までが長い。コースタイムをオーバーしてもなかなか到着しなく、タクシーの時間が気になりだす。20分遅れの16時半に到着。道が荒れているからかもしれないが、どう見てもコースタイムはおかしい。これでやっと17時15分迎車のタクシーに間に合う。突然、祖父谷川から岩屋橋に向かっているはずのグループから「ヤンレー」のコールが掛った。何でとびっくりしながらも、タクシーの時間が気になり、歩きながら話を聞くが、当人達も何でこんな事になったか、まだ理解が出来ていなかった様だ。

とにかく、タクシーとの待ち合わせ時間にかろうじて到着した。
あの煩い岩屋不動の駐車場で着替えをして早々にタクシーに乗り込む。



タクシーの中は、偵察コースの珍事で大笑い。反省会は大いに盛り上がった。
ことの顛末は、鎌田さんから詳しい報告があると思いますし、聞きたいと思います。

とにかく、秋らしい爽やかな気候の中、
北山最深部の茶吞峠―天童山―飯森山―城丹国境尾根―ナベクロ峠―棧敷ヶ岳―薬師
峠―岩屋不動(志明院)を歩き通せて良かった。
次は、花背高原―和佐谷峠―百井キャンプ場―天ヶ岳―寂光院道―大原を歩き、12月
には大原―比叡山―琵琶湖まで歩き、北山クロストレイル東西コースの完歩打ち上げ
会と同時に忘年会を行う予定です。
現在の北山は、地図に載っていない林道が沢山出来ている上に道も荒れているので、
地図の林道やテープマークは、ほとんど役に立たなくなっています。
丹念に読図を繰り返して進むしかありません。手を抜くととんでもないしっぺ返しを
覚悟して下さい。



第三回トレイル(茶吞峠～城丹国境尾根～棧敷ヶ岳) 番外編 偵察コース

山行日 2015年10月 3 日

参加者 S35卒鎌田克則、S37卒森村征男、打越啓祐、S487村田 潔

コース ナベクロ峠 ～祖父谷川～オ梅谷偵察～岩屋橋で縦走コースと合流

10月3日(土)、北山クロストレイルの中枢部分の走破を、岩切さん他ハイ年齢のOBが挑戦し、完遂したことは、既に岩切さんが報告されている。

即ち、皆さん早朝からJRバスで周山に向かい、そこからタクシーで稲荷谷川林道最奥迄突っ込み、要領よく茶吞峠に到着。急坂の天童、飯盛を難なく通過、予定より早くナベクロ峠に着いた。そこまでは満点。

そこで棧敷山に向かうパーティーと祖父谷川を下るパーティーと4人ずつ別れた。後者はイーザールート、峠を下れば林道に出、後は林道を下るだけ、それも先日偵察済、全問題なしと思われた。そのメンバーは打越、森村、村田(敬称略)と私。それが何と不覚にもとんでもない谷を下った。ナベクロ峠付は地図をよく見ると地形が緩やかで、しかも点線が大森側から祖父谷に越えている。事実踏み跡もそれに従っている。そもそも峠と言うものは尾根を挟んで、登って来た方向と反対方向に向かうのが常である。よって当然ながら大森から登って来た道の反対方向に進み、谷を下り始めた。これまでが余りに順調で、気が緩んでおり、何の疑いも持たなかった。一応磁石で方向も確かめたが、方向としてはそれほど違和感が無かった。事実当初の角度はそれ程違わない。所が段々下る方向が思ったより右に曲がって行く。何やら様子がおかしい。その内に段々急になって来る。そこで気づくべきだった。後で地図を見ると、要はナベクロ峠で越えた尾根は主尾根ではなく、結論としては大森から登って来た道の、その右側の枝尾根を越え、東隣の谷を下っていたのだ。

その内とても考えられない滝が現れた。降りられなくて高巻を強いられる。今更戻れない。それに初めから反対方向に下った事と、谷は降り口さえ誤らなければ、必ず目的に到達するとの確信があるので、根本的に考え直す気持ちが全くなかった。何とか1時間強悪戦苦闘の末、林道に出た。それでも祖父谷側の林道に出たと思っていた。ただ右にあるはずの棧敷の尾根が無く、むしろこれまで縦走してきた送電線が見える。おかしい。



ススキの綺麗な林道を下る内に、ユンボのエンジン音が聞こえる。先頭の打越さんが、その運転しているオッチャンに

「この道を進めば何処へ行くの？」と聞いた。

「大森や！！」「ヒエー！！」

私はこれまで「この道行けば何処へ行くのか」と人に聞いたことは無い。嗚呼恥ずかしい。年寄の頑迷、不審に思えば、即見直す初心を忘れた結果だ。

さてえらい事になった。5時15分に岩屋橋で、岩切他3人と出会い、且つタクシーの予約がしてある。勿論岩切パーティーに携帯は通じない。「弱った。」

と話していると、そのオッチャン曰く「どうせ俺の作った道や、薬師峠まで送ったろか」と言う。とっさ、大森まで下り、薬師峠まで林道が出来ているのかと思った。しかしそれでも無さそう。「所で、そこに居た熊があんたらの方に行ったが、出会わなかったか？」

又「ひえー！！」と言う次第。

「ちょっと待つて居れや」と言って、そのオッチャンは上部にあるユンボに向かう。

我々は為すすべなく、神様のようなそのオッチャンに頼るしかない。それはそうと車は何処にあるのだ。見回しても無い？

その内エンジンの音が止まり、やがて山の斜面に、そのユンボが造ったと思われる45度程の急坂から、突如ハイラックスサーフの腰高トラックが降りて来る。「これか！！」。

「ちょっとUターンするからどいて」と言われ。それからどうするかと思いきや、何とその坂を上ると言う。荷台の荷物は後ろに寄せ、私は助手席に、後三人はトラック荷台の運転席の後ろの柱にしがみつく。助手席のシートベルトを探していると、そのオッチャン、「そんなもんは要らん。落ちた時脱出できない」と言う。そしてその急坂をローギアで猛然と登る。それこそオッチャンが造った、オッチャンだけの、オッチャンの為の、栈敷の主稜に達する、オッチャン車の幅だけの道なのだ。私も世界の僻地に行くので、大概ひどい車やへりに乗る。今回はそれと劣らぬ一級のレベル。どうも栈敷岳の西斜面を殆ど直登気味に登っているらしい。途中道が湿っぽくなる。道が余りに急坂で、後輪が空転して登らない。

「降りて押せ！！」。三人が降りて押す。全く動かず。

通常ならそこで諦めるところ、そのオッチャン、猛然と100m程バック。その間の恐ろしさ。目をつぶる。そして今度は猛然と加速前進。やはり後輪が空転して、「もう駄目だ」と観念したとき、その湿地帯を抜けたのだ。正に天佑と言うべきか。更に登るとやや平坦。尾根上に達したようだ。「降りろ」との命に、車から降りると、オッチャン先に進むこと30分で、栈敷から薬師峠に達するハイキング道に達する。そして30分も下れば薬師峠に着くと言う。「嗚呼ありがたや。ありがたや」そのオッチャン、よく見るからに逞しく、男らしく、山の男なのだ。正に神様、仏様である。若干のお礼をして、これからどうすると聞いたら、又その坂を下ると言う。家を聞くと、名前は和田さん。大森の東町、茅葺きが、銅版で覆われているので直ぐ解るとか。改めてお礼に参上せにやならぬ。感謝、感謝。

さて時間が迫る。急いで南方向に下る。うねうね道は曲がるが明確。岩切パーティーの通る道と同じ道なのだ。果たして30分と言われたが、到底その時間では着きそうにない。岩切パーティーは前か後ろか。1時間弱下るうちに、薬師峠が見えた。そして何と岩切パーティーが休んでいるではないか。当然彼らも驚く。所がタクシーを待たせている時間迄ギリギリ。説明もそこそこに、岩屋不動に向かう。後30分は掛かるだろう。道は思ったより悪いが文句は言えない。かなり急いだ。不動尊の屋根が見える。下る。タクシーが見えた。やれやれ。予定時刻10分前。あの神様のようなオッチャンが居なければ、えらい事だった。

快適にタクシーは走る。車内で簡単な経過説明。雲が畑を通過し、烏丸北大路の王将へ。そこでの反省会。正しく反省するばかり。しかしみんな元気で帰れたのが、何よりうれしかった。

参加者のコメント

S37卒 森村 征男氏

「神さま 仏さま 和田さま」

城丹国境尾根を順調に乗り越え、ナベクロ峠に着きました。

そこで二パーティに分かれ、我々は鎌田氏と共に祖父谷川を下る「楽チン」コースを取りましたが、初めから左へと思いつつ、鎌田氏は躊躇もなく右の広い谷を下りだし、今更パーティを分けることもないと思いついて行ったのが大間違いでした。

帰ってから拡大地図で見たら、栈敷ヶ岳へはナベクロ峠からは東方向で栈敷ヶ岳組もかなり迷ったようで、北東が進むべき谷でした。お蔭で想定外の滝、打越は20m？はあるという滝にも合い、悪路を彷徨い林道に出ました。もう間違いは確か、「太陽に向かうとは西に向かい、さっき越えて来た尾根も見上げる送電線も違い、大森への道に下りた」と思いました。打越が、エンジン音がするのを聞き訪ねたら、やはり「大森だ」と聞き、「サァー エライこちゃ どうしよう」と云う時に、そのオッチャンが薬師峠方面に送ってやるといい、しばらく待てとの事。わけがわからん、携帯の通じる所、大森か小野まで行けばタクシー会社にも連絡とれるとか考えましたが、しばらく待つとオッチャンは余裕ありの顔でハイラックスで我々四人を乗せて、急坂な林道を登り始めました。まさに「My Way」でした。

ハンドルを誤れば谷底に転落しかねない悪路を駆け登り尾根まで追ってもらい「感謝 感謝」を言いつつ、まさに「捨てる神もあれば 拾う神もあり」。

この親切なオッチャンに出く合わせなければ、本当にエライ事となりかねませんでした。

幸運の神が見捨てななかったことに感謝です。薬師峠迄30分と云うが、結局小1時間かかり、峠で栈敷組と出合、皆「なんでー」の顔が面白かった。あり得ない出会でした。兎に角、全員無事に下りて良かった。鎌田さんに「丸坊主もんやな」といい、大笑いでした。

第三回トレイル下見 その1 祖父谷峠周辺の尾根筋

山行日 2015年8月29日(日)
参加者 S35卒鎌田 克則、S37卒森村 征男、打越 啓祐、S47卒西尾 憲次、
S48卒岩切 徹
コース アプローチ
JRバス京都駅発 6時50分発で周山へ
周山からタクシーで稲荷谷川のハングライダー道分岐着 8時30分

北山クロストレイル計画の概要は、まず横断ルートとしては

- ・(1日目) 保津峡・亀岡の大堰川から愛宕山を越えて周山街道まで(2日目) そこから城丹国境茶吞峠まで。
- ・(3日目) ナベクロ峠、祖父谷峠、石仏峠辺り経由、芹生、ワングル小屋泊(4日目) 寺山峠、百井、大原
- ・(5日目) 比叡山を縦断して琵琶湖へ。

また縦断ルートは、

- (1日目) 京都市内からワングル小屋まで、(2日目) 由良川源流辺りまで、
- (3日目) 若狭越えして日本海へ。

要はワングル小屋でクロスするのです。

既に横断ルートの1日目、2日目は完遂し、要は3日目については、岩切さんの時間計算ではとても長く、9月25日(金)~27日(日)頃の計画では、途中山国の旧学校宿舎に泊まる計画が進行中です。所が私は、少々強行軍ながら、茶吞峠からワングル小屋迄、1日で行きたい。毎日カシミールの地図を拡大して眺めていましたが、要は祖父谷峠周辺の尾根筋が上手く通過できるか、それとも一旦下って狼峠を越えるか。

果たしてその峠が越えられるか、灰屋川源流は灰屋~芹生間の中間で本流に合流するが、その谷は歩きやすいか等が不明なのです。以上を踏まえて、私は早速森村さんに栈敷に登るより不明なルートを偵察しないかと持ちかけた。一も二もなく一致。

まず祖父谷へ。車は岩屋橋から祖父谷川を遡る。並行して流れる中津川は、最近よく豪雨で通行不能であることを知っている。よってこちらもしずれ行き止まりになると思うのに、ドンドン車が進む。もう栈敷の直登ルートの入り口近く。しかし我々は、右の狼峠を越えたい。果たして峠道は残っているか。高校山岳部時代1度や2度は越えているが印象に残っていない。高圧線の手前で車を止め、右岸を偵察しながら慎重に進む。この辺りが狼峠入口と思う辺りの対岸上部に、ずたずたになった林道の一部が見える。“狼峠は林道になっていたのか”と思い渡渉地点と思しき所(地図⑤)には、白い針金線が貼られその上に赤いテープが2m位ガッチリと貼られている。明らかに遮断の意図あり。何か上部に不都合がありそう。そこで急遽、祖父谷峠廻りで灰屋川源流に入り、裏側から狼峠を越える事にした。よってそのまま祖父谷を遡る。なかなか立派な林道である。最終黒い実線と分かれる地点①より林道は北から東へ向かう模様。我々は取りあえず祖父谷峠を目指す。2.5万図の点線はそのまま突き上げているが、踏み跡はもう一本左の谷を登る。その方が峠に近い。簡単に到達。さすが城丹国境の峠②、大きな杉の木が四~五本立っていて風格がある。そして地図に示す高圧線が確認できる。所が地図にはない高圧線がもう1本、その北100mぐらいに並行して走

っている。これが我々が向かう石仏峠に向かう尾根道に沿っていて、有難い事に、順視路が設けられているのだ。



祖父谷峠

一休みの後、尾根を辿る。快適な道だ。四つ目のピークから順視路は左に、我々は右の尾根道の踏み跡をたどる。地図によれば、それを越えてやや東に下れば先ほどの林道に出合う筈。ピークに達したら、すぐ下の、刈り取られた斜面に林道③が見えるではないか。簡単に灰屋川源流に達したのだ。林道にどっかりこそをおろし、歓談しながら昼食。森村さんはコーヒーを沸かしてくれる。まだ一時半頃。天気も悪くないし、言う事なし。そしてそのまま林道を下る。このまま行けば、灰屋と芹生の間の合流地点に行ける筈。但し、下るうちに林道が欠けている。ジムニーと思しき車両のタイヤ跡が。それにバイクのタイヤ跡も残っている。確かにバイクなら通れるであろう。と言う事は、灰屋迄林道が有る事になる。但し後で考えると、祖父谷川から来たのかもしれない。

下るうちに、再度裏側から狼峠を越えなければ、我々の車のある場所に戻れない。慎重に入口を捜す。案内書によれば入口に道標があると書いてあったが、あてにはならぬ。右岸に小さな谷がある。如何様にもこの地点である。しかし伐採による廃材が散乱して、とても峠の入り口とは思えない。どうせもう少し灰屋川の様子を偵察する必要があるのでそのまま下る。しかし次のカーブで現在位置が明確。やはりあれしかない。その時一人のハイカーが付いてきて、狼峠の入り口は何处かと聞く。そこでやはりさっきの所しかないと戻り、慎重に偵察。廃材の一部に少し踏まれた跡がある、そこを慎重に降り、川を渡る。③何たって何百年間あって、陸軍参謀本部の5万図に明確に点線が引かれていた峠道が消える筈がない。



廃材を乗り越え乗り越え右の尾根寄りに登るうちに、森村さんが踏み跡があると言う。辿ってみると段々道らしき様子になって行く。疑わしように付いて来たハイカーも俄かに元気が出して、さっさと抜いて行った。最後に北に振るのだが、ハイカーはそのまま進んだようだ。「一寸挨拶ぐらいして行っただろうか」このまま我々に出会わずウロウロしていたら、とても今夜中に家には帰れまい。

峠頂上④にはしっかり狼峠の道標が。「それなら入口に案内を付けて置け」と言いたい。

峠で休息。見れば私の腕にヒルが取り付いている。あわててシャツやズボンを脱いでお互いに探し合う。こんな風景、とても女性に見せられない。二番手で登った私には二匹ついてた。なかなか血が止まらない。

高々100mに足らない登り下り、峠からは崩れたままの林道がとぎれとぎれに付いており、歩いて下るのには支障なし。今朝ほど見上げていた渡渉地点⑤に達する。針金や赤テープで、昔からある峠道を遮断するのは言語道断。ハイカーたちにも不安を与えた事で有ろうし、案内書も訂正の必要が有ろう。早速、遮断針金等を取り払う。



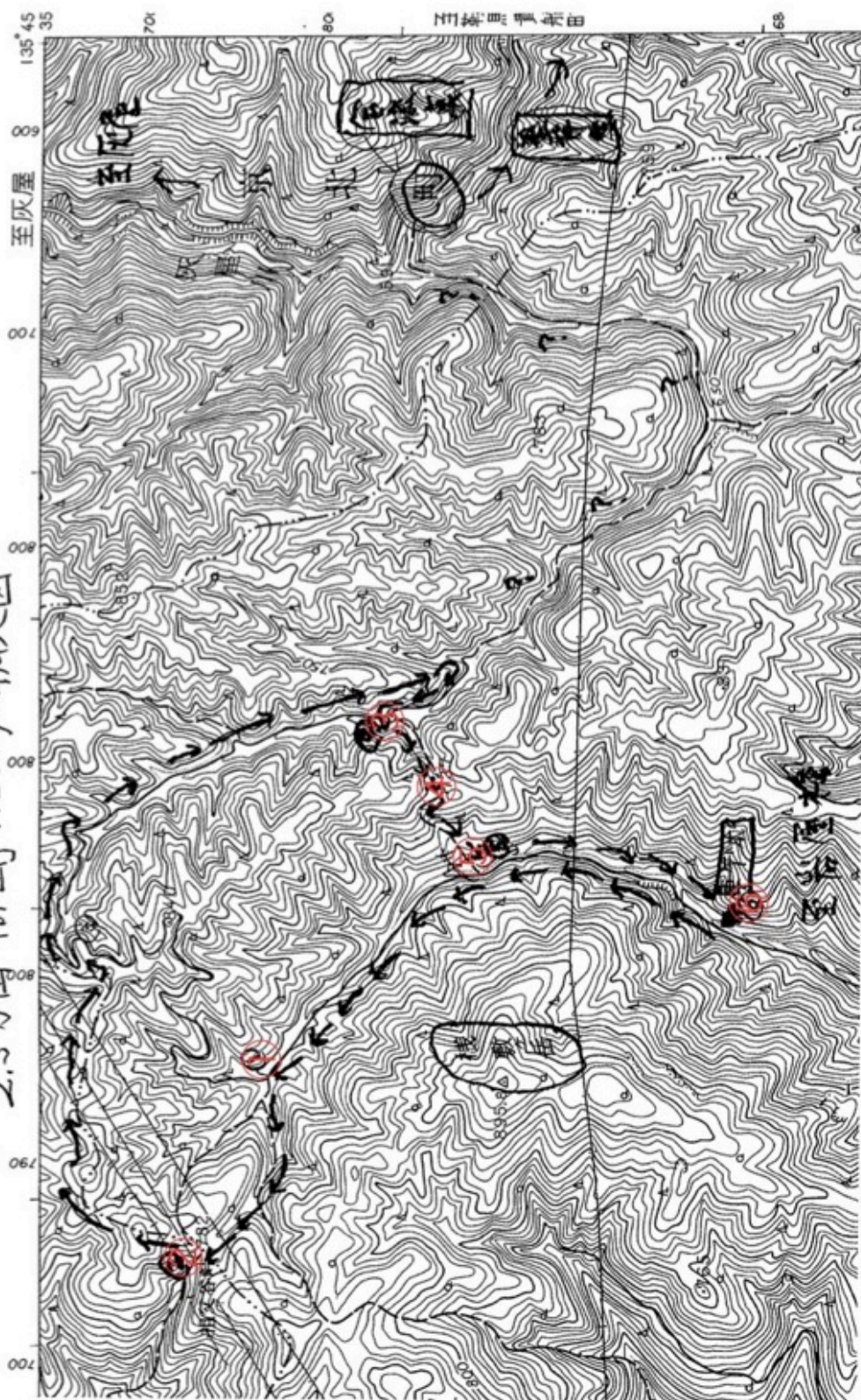
後はルンルン気分で林道を下るが、なぜか遠い。こんなに歩いたかなあと言う頃、あの頼もしいタントが鎮座していた。

⑥後は上賀茂神社近くの喫茶店でお茶を飲み、充実した一日を尚一層充実させることになりました。

よって結論、祖父谷峠から一時間半ぐらいで、灰屋川源流の狼峠入り口付近に達する事が出来、そのまま林道が続くなら芹生までもう一時間か、1時間半で半で達すると思われます。要は、祖父谷峠に2時までに達すれば、ワンゲル小屋に明るい内に到達できると思われます。唯、灰屋から狼峠入口まで、林道が伸びていることを再度確かめられれば完璧です。何とか確かめたいものです。如何でしょうか。岩切さん。

5235-55

2.5万図「周山」X200%拡大図



第三回トレイル下見 その2 灰屋川源流

山行日 2015年10月 3日
参加者 S35卒 鎌田 克則、S37卒 森村 征男、打越 啓祐、S47卒 西尾 憲次、
S48卒 岩切 徹
コース 灰屋川合流点ー灰屋川源流ー魚谷林道合流ー魚谷山ー柳谷峠ー
芹生集落まで尾根ルートー灰屋川合流点ー山小屋

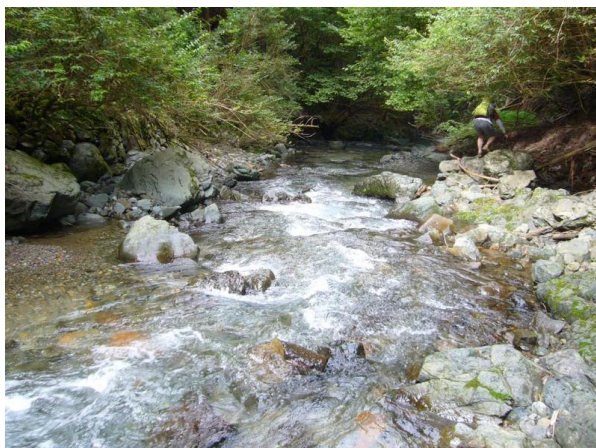
第三回北山クロストレイルのコース選定の中で、偵察ができてなかった灰屋川を遡行してきました。同行者は、祖父谷から祖父谷峠、石仏峠界限、灰屋川源流から狼峠辺りまで偵察された鎌田さんと森村さんでした。灰屋川は、想像以上に荒れていて、最近人が入った痕跡は何もなかった。

前回、灰屋川本流合流地点を森村さん、打越さんと下見した時は、水量が多くて、本来有ったコースから渡渉するのは難しい、合流地点から渡渉した方が良いと判断していました。しかし、今回訪れたら水量が減っていて本来コースから渡渉できそうだった。



森村さんは短パンに着替えサンダル履き、私も短パンを下に履いていたが、あわよくば長靴でと、鎌田さんは、「昔は登山靴のままで渡渉した」と今回も登山靴で渡渉と三者三様の姿で渡渉に挑む。

まず、身支度が一番いい森村さんが渡渉に挑む。深いところでも膝下位の深さとのこと。私は、ズボンをまくり、サンダルに履き替えて渡渉している間に、鎌田さんは登山靴のまま渡渉を終えていた。久しぶりに渡渉を楽しんだのと同時に安堵した。



対岸には、林道が残っていた。また、道路側から見えなかった場所に浅い所があり、ここなら登山靴でも渡れる様であった。但し、ここを利用するためには、合流地点から崖を下る必要があります。



林道を進むと左岸に渡る橋があった。地図を見ると対岸に渡るような点線があるが、そこから先には道は見えなかった。そのまま林道を進むと段々と崩壊場所が多くなり林道はなかった。対岸の道が崩壊したので、こちら側の土手を無理やりに進むようになったのだろうか。とにかく、相当に荒れている。



なんとか突破すると今度は、対岸に渡渉する所に出くわす。
合流点ほど川幅が広くなく、長靴を履いていた私は、濡れることなく渡れたが、二人は渡渉。
ロングスパッツをつけていれば、防げたかもしれない。
渡ってすぐにアルミの橋がかかっていたが、P759に取り付く道なのだろうか。しかし、橋は
老朽化していて渡る気がしない、道も見えない。



ここから先は、踏み跡らしき道がある感じがしたが、深いしだに覆われて全く見えない。壊れかけた獣除けの柵があったので、それを頼りに川沿いを進んでいく。この魚谷には、最近人が入った形跡は何処にもなかった。合流地点から1時間、やっと魚谷峠への林道に出た。ちょうど、モトバイクが狼峠方面から降りてきた「[何処から来たか]と聞くと、祖父谷川を詰めて祖父谷峠、前回鎌田さん達が探索された灰屋川源流に下り林道を降りてきたとの事。この先は、魚谷峠に上り、反対側の祖父谷川に抜けるとのことであった。これで祖父谷川、ナベクロ峠、祖父谷峠、石仏峠分岐から灰屋川源流に下り、魚谷峠、祖父谷川は、完全に林道が繋がっている事が分かった。



我々も時間があつたので新たなルート開拓を目指して魚谷峠、魚谷山、柳谷峠まで行くことにした。



ここからは、芹生峠まで尾根道が伸びているが道は踏み跡しかない。
 その途中から車を止めている芹生集落まで尾根ルートを開拓して下ることに挑んだ。
 枝尾根が小さくなかなか尾根を選択ができなく、芹生峠に近い方がなだらかと奥の尾根を選択して降り始めた。最初は、なだらかだったが、突然に落ち込んでいた。
 寸足らずの尾根でやむなく急斜面を下り、最後は沢の中を進んで予定通り林道に出た。



このところ、道なき道をルートを探しながらの山歩き多いが、非常に楽しいです。低い山をルートを探しながらゆっくり歩くのでシニア登山に良いかもしれません。
車の所に戻り、トレイルの食料と寝袋を荷揚げのために山小屋に向かう。

ここで第三回北山クロストレイルのコースを確定しました。
灰屋川沿いの道は悪いが最短コースを利用して一泊二日で行うことを決めました。

1日目 26日(土)

京都駅7時 MKジャンボタクシーをチャーターして、途中で参加者をピックアップしながら西の谷川に向かう。

西の谷川ー茶吞峠天童山ー飯森山ー城丹国境尾根ーナベクロ峠ー祖父谷峠ー灰屋川源流ー魚谷ー灰屋川本流合流ー山小屋

2日目 27日(日)

山小屋ー雲取山寺山峠ー花背高原ー和佐谷峠ー百井峠ー天ヶ岳ー寂光院道ー大原

週間天気予報を見ていると26日は、曇り時々雨となっています。(降水確率50%)

今日27日の天気予報が出た段階で決行するか決定します。

もし、雨で延期する場合は、日程が詰まっていますので、平日の皆さんの都合の良い日に決行する予定です。



第四回トレイル(花背高原～大原)報告

山行日 2015年11月21日
参加者 S37卒森村 征男、打越 啓祐、S47卒西尾 憲次、S50卒石橋 光正
コース 約6時間の行程
花背高原一和佐谷峠一百井キャンプ場一天ヶ岳一寂光院道一大原

11月21日、北山クロストレイルを歩いてきました。

直前に鎌田さんが風邪、岩切君が肩を痛めて不参加となり、参加者4名と寂しいトレイルとなりました。

天気予報は「晴れ」でしたが、うす曇りの中、出町柳に集合し京都バス（7：50発）で4名（森村・打越・西尾・石橋）が出発。大変な人でしたが、森村さんが先頭に並んで順番を確保して頂き、無事バスに乗り込むことができました。花背高原駅に9：25に着き、いざ出発です。大昔、買い物をした農協のお店（現在集会所）の横を通って和佐谷を登って行きます。最初は道もはっきりしていましたが登るにつれて不明瞭になってきます。

尾根には花背峠からの道が通っているのをそれを目指して植林杉林の中を進み、尾根に近づくくと巨大な杉の古木が迎えてくれます。尾根からは琵琶湖が遠望できました。

和佐谷峠からではなく、尾根道から百井キャンプ場への道の入口が判りにくいです。

道脇にテープの貼ってある木を発見し、方向を確認して進み砂防堰堤に出てきて、そのまま谷を下るとキャンプ場への道標を発見、一安心です。道標をよく見るとわれわれの来た方向の矢印の先に「いきどまり」と書いてありました。11：30に百井青少年村キャンプ場に着き少し早い昼食となりました。



12：00に天ヶ岳に向かって出発です。舗装道路を少し百井峠方面に戻って登山道に入ります。ライオンズクラブ寄贈の看板に導かれて45分後に天ヶ岳頂上に到着です。木々に囲まれて展望できません。看板があるのみです。

13：00寂光院に向かって出発です。

4名中1名が持っている地図にのみ載っている天ヶ岳を東南へ行き、寂光院道に合流することに決定しました。もちろん藪漕ぎです。途中で道が不明となり元の分岐点の「迷」の看板（ライオンズクラブ寄贈）を目指して戻る結果となりました。

再度、寂光院に向けて寂光院道（尾根道）を下山し、15：10寂光院に着きここから京都バスで反省会の会場へ向かいました。反省会では、無事の「帰着と健康」に感謝感謝で終了しました。

参加者のコメント

第4回北山クロストレイルを終えて

S37卒 森村 征男氏

今回は、色々と不都合があり4人のメンバーとなりました。

岩切さんのアドバイスもあり出町柳のバス停に7時10分過ぎに着き見渡すと叡電の前は大勢の人が並び、これは大変と思いましたが広河原行きは誰もおらず、どうやら一番でした。

メンバーも時間に立つにつれ集まり、石橋さんは遠く河内からの参加、うれしい限りです。バスは定刻通り出発、我々は座ることが出来ましたが、鞍馬を過ぎても降りる人はまばら、満員状態で花背高原で下車。何十年振りかの広河原行きのバスに乗りました。

花背別所から東に向かい、谷をつめて行けば伐採放置された杉丸太を乗り越え、尾根近くになり二本の樹齢2、3百年経ったであろう杉の古木を発見。見に行くことになり、又杉丸太を越えたら林道に出ました。電波中継塔の近くでした。尾根は林道で百井への下る道はなく、滝谷山寄りの南東に向かう尾根の木に何本かのテープを見つけ尾根を下り、堰堤工事の道を下り約2時間で百井のキャンプ場に到着、早めの昼食をとりました。

次は、天ヶ岳に向かうべし百井峠へのつらいアスファルト道路を歩く途中で3人のボーイスカウトの男女に会い、「どこまで」と聞くとキャンプ場だと云い、多分中学生かなと思えるが野外生活を積極的にするのは将来が楽しみに思えた。百井峠の手前で左に入り、天ヶ岳の山道に行く途中で「なめこ」らしきキノコを見つけたが、ちょうど10円玉ぐらいのキノコが鈴生りでした。誰もが自信もないので諦めたが、十中八九間違いないのではと思います。天ヶ岳周辺でもかなり見受けられ、大きくなりすぎもありました。天ヶ岳へは、寂光院への道から外れ右に入りしばらくすると頂上に出ました。そこには10人足らずの若者が居り、聞けば阪大のワングルとの事、我々も立命のワングルOBであると云い別れました。

それからが私の大間違い。

「南東から北東へ向かえばショートカットできるのでは」と古い地図には道があると云い、下りましたが山道に出て間違いに気づき、そのまま下ると金毘羅山の西側に出る恐れもあり、北上した結果、なんてことないさっき別れた分岐点に戻りました。寂光院への道はとにかく長い。其の上、落葉があり足場がわからず慎重にならねばならず、下り道といえかなり足にダメージでした。三時過ぎには寂光院に着きましたが、連休の為か人があふれていました。出町柳までまた満員のバスに乗り、時間も早すぎ「反省会」をするにも店はなく百万辺に出たら「楽キィ」、「王将」があるではないかと移動。早速、生中と餃子から始まり反省会が

行われ、次回最終の比叡越えと忘年会の話しやらで散会しました。

今回、私はいい加減なことで1998年発行の昭文社の「京都北山1」のみでした。

帰ってから地理院地図をコピーしましたが、大見尾根周辺、又何処も同じ様ですが、林道が一部しかなく入り乱れの林道があり、又その工事のお蔭で山道が消えてしまったのではとも思

藪漕ぎも楽しからずやです。



第五回トレイル(大原～比叡山)報告 横断コース完歩達成

山行日 2015年12月12日(土)
参加者 S35卒鎌田克則、S37卒森村征男、打越啓祐、S47卒西尾憲次、村田 潔、
S48卒岩切 徹、S50卒石橋 光正
コース 約6時間の行程
大原 野村別れー仰木峠水井山ー横高山ー玉体杉ー延暦寺ー大比叡



京阪三条に集合して、京都バスで大原 野村別れ下車。今回は、横断コース最後ということで、ゆっくり楽しみながら歩けるコースにしました。

東海道自然歩道を進み、のんびりと大原の里から前回のコースの天が岳方面を眺めながら仰木峠に向かう。この登りは、歩き始めるには丁度良い勾配で北山らしい道でした。
コースタイム1時間のところを75分で仰木峠到着。シニア登山のスタートとしては良い準備運動でした。峠からは、琵琶湖大橋も見えました。



ここから水井山までの230メートルの登りが始まる。今回のコースでは、唯一の登りらしい登りで結構急な登りでした。ここで風邪を押して参加された鎌田さんがしんどそうである。やはり、風邪で呼吸が上手くできないようでした。
ゆっくり休みながら水井山まで登って頂きました。



頂上で昼食をとりながら、体調が悪い鎌田さんが水井山を下った所でエスケープしてドライブウェイから根本中堂に向かう、ということで石橋君が偵察に出かけた。横高山への鞍部まで下りて、ドライブウェイへエスケープ予定でしたが、道もはっきりしない。鎌田さんが、横高山への登りが大したことがないので頑張って登るということになり、そこを下った所からエスケープする事になった。横高山を下るとすぐ横をドライブウェイが通っていて、ここで鎌田さんはドライブウェイを通して根本中堂で合流することにして別れた。残りのメンバーは、ドライブウェイに沿っての山道に行くことにした。途中、鎌田さんから教えて頂いた玉体杉から御所を眺める。



延暦寺に入るとガイドをされている打越さんから歴史や建物の説明を聞きながら根本中堂に向かう。途中で、比叡山の一等三角点がある大比叡に行ったことがない若手4名は、別れて四明岳から大比叡へ向かう。この間に、森村さん、打越さんと合流された鎌田さんは、寒くて体調が悪いということで先に下山されたとのことでした。大比叡からの下りは、国土地理院の地図では途中で道がなくなっているが、西尾さんが持っていた京都トレイルの

地図では道があるようになっている。それを頼りに近道に行くことにした。

やはり最後は、廃道に近かったが何とかケーブル駅の近くに降りることができ、森村さん、打越さんと合流した。



京都駅に戻り東西コース完歩の祝勝会を兼ねて忘年会に参加。今回は、体調不良で参加できなかった広瀬さんと忘年会に参加される為に遠くから栗原さん、北野さんが合流。年が明ければ、日本海の小浜から京都までの縦断コースが始まります。

鯖街道の中で一番歴史がある根来坂峠(針畑峠)からのコースを歩く予定です。

横断コースを歩けなかった方も縦断コースを歩いてみませんか。

なかなか歩けないコースだと思います。

参加者のコメント

S35卒 鎌田 克則氏

北山クロストレイルの大堰川から愛宕山を越え、城丹国境尾根、立命ワンゲル小屋、花背、百井、大原、そして昨日の迎木峠から比叡山坂本に至る最終ルート完走に心よりうれしく思います。残念ながら、私は風邪気味だったせいか、水井の登りでやや呼吸困難となり、みなさんにご心配をおかけしました。幸い比叡山ドライブウェイが近く、そこへ降りて、道路巡視車にピックアップしてもらい、根本中堂で森村さん、打越さんに会い、頂上を目指された方をお待ちしましたが、だんだん寒くなりましたので、一足先に坂本ケーブルで下山、忘年会も出ずに帰宅しました。申し訳ありませんでした。

最近風邪をひくと、駅の階段などを駆け上がると、苦しくなることがあって、先日恒例の人間ドックでも検査をしてもらいましたが、肺活量が少し（以前より）少ない程度で異常はありませんでした。多分心配はないと思って居ります。とりあえずこれから雪のシーズンでもありますので、大事にします。今度はいよいよ京都縦断です。どちらかというと、若狭街道、鯖街道のどれかになるでしょう。どうしても車道歩きが増えますが、雪のため不通の時に雪を蹴って歩きたいものです。もう一つは、やはり現役の参加を得たいものです。そもそも現役にワンデリングとはこういうものだと言われれば動機だったのですから。しかし年配のOBに受けたのはラッキーでした。

これで北山に行く機会が増え、改めていろんな方の参加があったことはお互いに幸せな事です。これを機会にもっと北山に接する機会を持ちたいものです。

最後に遠いところから、いろいろ具体的な計画を進めていただく岩切さんに心より御礼申し上げます。

S37卒 森村 征男氏

「北山クロストレイル 東西コースを終えて」

そもそも、この発端は4月の役員会議後の現役生から始まりますが、鎌田氏からのトレイルの話が私が電話で受けて、北山の中心に我が山小屋があり、ここを起点に東西南北を踏破する。まさに「北山クロストレイル」だと命名しました。早速、5月の連休明けに鎌田氏の大阪の事務所に集まり、取りあえず西の愛宕山から東へと決まり、第1回が5月30日に始まりました。

1回目の愛宕山から最終の比叡山を終える間には、現役生を交えた「読図会」もあり、特に2回目の二ノ瀬から芦生峠、旧花背、鞍馬へ10時間を歩いたことや、トレイル以外に探査のために祖父谷峠、茶呑峠、魚谷川を歩きました。愛宕山や比叡山は別としての北山は、縦横にできた林道や送電線の鉄塔工事のための道路または堰堤工事用道路、その上、杉などを伐採し放置されて過ってはあったであろう山道は消えてしまう中で、時たま古い道や先人たちが苦労しながら築いた石垣などやお堂を見るとホッとします。とにかく北山は地図と磁石を頼りに、北アルプスなどと違いしっかりとルートを探さないとえらい目にあいます。時として藪漕ぎやコースアウトもありよい勉強になりました。まもなく77歳を迎える我々には、高度もないし、無事に帰ればいつものように「反省会」があり、楽しい春から冬を過ごさせてくれた皆さん、ありがとう。

来春には京都から小浜までの縦断コースがあります。私もできる限り参加したいと思います。OBの皆さんもこぞって参加を望みます。

これが成功すればまさに「北山クロストレイル」です。

S37卒 打越 啓祐氏

「北山横断トレイルを終えて」

愛宕から琵琶湖まで山小屋付近を通過する北山横断トレイルを作ろうと壮大な計画が鎌田先輩より提案された。とにかく現地を歩く事が必要となり5分割、5回に分けて歩きぬいた。北山なんて「屁の河童」と思って歩いてみるとこれがかなりのもので、平均一回の山行は8時間位歩いた気がする。歩き通した感想は 山が予想以上に荒れていた事、登山（ハイキング）コースも消失している場所が多かった。当然の事であるが77才の年令をいまさらのように実感させられた。そして下山し「反省会」と称しては軽く一盃（時には沢山）呑んだ事などが思い出される。参加している一日は、時間が50年以上もタイムスリップし、現役時代と同じ気分になれたことであろうか。とにかく全てが楽しかった。蛇足ながら、このような楽しい時間を作る事が「生きる活力になるんだろうな」と思っている。

最後にお世話になった仲間達にお礼を申し上げます。

学生の頃、北山は間違いなくホームグラウンドであり、そこを彷徨することは生活の一部のような感覚であったと思います。5万分の1の地図に赤鉛筆を巡らせ、破線を赤で埋め尽くそうと思っていた時から40年経過致しました。そして改めてそのホームグラウンドに浸ってみると、間違いなく時は経過していたと感じました。破線の登山道は林道らしきものに分断され、木馬は消え、イノシシ・鹿よけの柵が至る所に設置され、熊笹も消滅しつつあります。

北山トレイルに参加させていただき感じたことは、それでも変わっていないものもあるという事でしょうか。やはり沢の水は美しく、朝日に照らされた紅葉は秋を感じさせてくれ、様々な口では語りつくせないものがあります。2回しか参加していませんが、今回のトレイルは北山を思い出させてくれたいい企画だったと思います。

又、先輩たちとのパーティー行動もなかなか新鮮です。年齢差の中で互いに気も遣い合いながら一日を過し、最後は反省のしない反省会でなんとなく満足しながら帰路につく。

いい一日だったと思います。

久しぶりに北山を楽しめたのは、心地よい空間がまだ北山の中にあるからだと思うし、それは理屈ではありません。その思いは先輩たちも同じではなかったのかと感じています。

異なった時代にクラブに在籍し、あらゆる環境も、考え方も様々である我々の共通項は理屈ではなく「北山に在る」という事ではないのかと思っています。

小浜までの南北縦断トレイルでは、S49年2月に旧入合宿の代わりのPWで行った根来坂峠北東の「雪の百里ヶ岳」に思い出があり、再び訪れることが出来れば、単純に北山の25000分の1の地図に赤線が増やす努力を又始めるかもしれないと感じています。



第六回トレイル 縦断コース(久多～小浜)報告

山行日 2016年6月12日(土)、13日(日)
参加者 S35卒鎌田 克則、S37卒森村 征男、打越 啓祐、S47卒西尾 憲次、
S48卒 岩切 徹
コース 1日目
JR堅田駅集合、栗原さん、村田潔さんおサポーにて、久多上の町
久多上の町ーミゴ谷ーミゴ峠ー経が岳ー桑原橋ー山帰来
2日目
山帰来ー小入谷登山口ー焼尾地藏ー根来坂峠ー小浜から18.5キロの道標ー
鯖街道への分岐ー若狭側の登山口

1日目

JR堅田駅7時半集合。

今回のスタート地点のミゴ谷へは、足の便が悪くてアプローチをどうするかなやんだ。
今回は参加されない村田さんに車でサポートをしてもらえる様になり、栗原さんの車と合わせて有意義に活用させて頂きました。

2台の車で堅田から登山口の上の町へ。すぐに、下山口の桑原橋に桑原さんの車をデポするために向かう。デポ後、村田さんの車で登山口のミゴ谷に引返して来た。
その間に、残りの5名は、ウォーミングアップを兼ねて登山口のミゴ谷に向かう。
タイミング良く、先発隊がミゴ谷へ出発する時に村田さんの車が到着して、全員揃って出発することができた。



今回歩くミゴ谷道は、私が調べた中では、鯖街道最古にして最短コースということで選択しました。北山に詳しい檀上君(S49卒、「北分水嶺を歩く」、「高島トレイル」等の地図作成者)からの情報通りミゴ谷は、倒木が多くて難儀する。途中、沢に入ったり、泥がぬかるんでいるのでスパッツをつける。



稜線直下に来ると谷が3方向に分かれていて、どこにも道が見えない。
 手分けしてルートを探すのははっきりした道が見当たらない中、谷をはさも尾根にどうやらや踏み跡らしき道を見つけて進む事になった。最後は、踏み跡もなくなり谷を直登することになった。地面はぬかるみ、濡れた岩で滑るし、ついに藪漕ぎ。しかも、逆かさ藪で枝にぶら下がりながら何とか進んでいく。今回のトレイルに参加されることを躊躇され、比叡山トレーニングまでされた鎌田さんのワンゲル魂に火が点いた。先頭に立って藪ルートを稜線目指して進む。悪戦苦闘の上、少し右にずれた様であるが稜線到着。約2時間の格闘でした。さすがに稜線にたどり着くと皆へろへろで座り込み、昼食の大休止となった。皆曰く「一級品の藪漕ぎだった」。
 この道は、もう歩けない、歩かない方が良いでしょう。



1時間の休憩後、経が岳に向かう。これを越せば、今回の難ルートは突破で、あとは楽しい鯖街道が待っている。途中、道標を見つけたが、やはりミゴ峠より南によじ登った様だった。経が岳へは、直登一直線、厳しい登りでした。



しばらく休憩して下りにかかる。2つ目のピークを下り始めたら林道が見えてきた。しかし、この林道が曲者でした。登山道を分断して作られ、所々に登山道を垣間見ながら丹波越え辺りに来る。丹波越えは、高島トレイルのコースなので道標が有るはずなのに見当たらない。三国岳に続く道らしきものが見えた。今の北山は、至る所に林道ができて、登山道を分断しているので難しいと肝に銘じているのだが、やはり楽な方に気持ちが行く様です。偵察も行わず、方向は合っているので林道を下ることになった。途中、一度方向を確認したが問題ないという事で後は何も考えずに下山。下り着いて桑原さんがデポした車を取りに行き、初めて下り着いた所は、桑原橋の一尾根南、平良側であることが分かった。またもやの失敗で皆で大笑い。



桑原さんが車を取りに桑原橋まで行くことになった。30分位かかったとの事でした。一度に車に乗れないので、森村さん、打越さんは、ビールを飲みながら歩くというので、先に宿の受付をするために鎌田さん、西尾さんと車に乗り込む。山帰来は、京大演習林に行った際に立ち寄って以来だ。針畑活性化組合が運営している研修センター兼宿泊所で週末のみ食事付き宿泊ができます。後で分かった事です、桑原さんの高校生時代のクラスメイトが管理責任者という事で翌日挨拶に見えました。食事後は、屋外のテーブルでワングル談義になり、その後は賄いの奥さんと色々話をされていたようです。



2日目

朝早くから玄関前にわか葉原喫茶店が開業。本格コーヒーを飲みながら、爽やかな朝を満喫。



この日、桑原さんは車で先導役。
不要な荷物は、車に残して、小入谷(おにゅう谷)登山口へ。
桑原さんはここで別れて、焼尾地蔵まで先行して我々が登ってくるのを待って合流。



鯖街道は、北山らしい登山道。また、際立った山容の山はないが、北山は奥深い山系であることを認識する。焼尾地蔵からは、栗原さんも根来坂峠まで同行して、また焼尾地蔵に戻ることになった。峠に着いたら、コースタイムより15分も早い。登山口までも5分早かった。昨日の疲れもなんのその、シニア登山とは思えぬ。皆さん、気持ち良く登られて達成感を感じられていたのでしょうか。



小浜から18.5キロの道標のある林道に行ったん合流、しばらく歩いたら最後の鯖街道への分岐を下り、若狭側の登山口に到着。

目標達成。

ここで再び栗原さんと合流して昼食。満足感に浸る。



昼食後、西尾さんと私は、車に乗りきらないので迎えに来てもらうまで先に小浜に向かって歩き始める。下根来まで来た時に迎えの車が来た。そして、小浜駅近くの波止場で日本海に到着しました。

予定していた反省会の場所の営業時間に間に合わず、JRバスが運行する近江今津で行うことにして、また西尾さんと私は、JRバスに乗るために小浜駅に向かい、残りの方は、栗原さんの車で向かうことになった。

近江今津の川料理の老舗「西友」で反省会を開き、JRで各自の自宅に戻っていった。



秋には、残りの花背峠から久多までのコースを歩き、北山クロストレイルを完成させたいと思います。

参加者のコメント

素晴らしかった針畑越え（根来坂峠越え）
京都北山クロストレイル縦断ルート第一弾報告

S35年卒 鎌田 克則氏

そもそも立命ワングルの一つの活動の在り方として、現役諸君に範を垂れるべく、京都大堰川流域から、琵琶湖までの北山横断と、京都市内から若狭まで北山縦断を思いつき、且つそのクロスする所に、わが立命ワングル小屋があるとしたのだが、何と集まったのは想定外の60代以上のOBばかり。その10人ほどのメンバーが入れ替わり立ち代わり計画実行に参加して、昨年からの春まで、5回、5日間かけて北山横断に成功した。その楽しさとノスタルジーが、メンバーの結束を益々固めるばかり。

今度はそのエネルギーを北山縦断に賭ける。どのルートに行くべきかに始まり、先ずは自然に若狭越え、特に針畑越えとなる。やはり若狭～京都のいわゆる鯖街道でも特に魅力のあるルートだ。その南の久多～市内は次回とする。

梅雨時期なるが、リーダー岩切さんの天候深読みの末、決行は6月11日（土）～12日（日）決行となる。

老いたる私は何としても完走したいと、そのトレーニングのため、その前週、森村さんを伴って修学院より比叡山に登り、下りは何と北白川まで歩いて下山したのだ。この涙ぐまし

い熱望を何としても理解して欲しい。（報告済）

さて6月11日（土），京都駅7時出発、山科で森村さん乗車、堅田駅では何と栗原さん、村田さんの車が2台待機。これでオールメンバーは森村さん、打越さん、岩切さん（飯島から参加）、西尾さん、栗原さん、村田さん、それに私、鎌田、計7名。ただし村田さんは我々を下山口まで車の配車の手伝い後、用事で離脱される。

まずは2台の車に分乗、途中、花折峠、葛川梅ノ木で左折、針畑川を越えて久多に入る。ここまでは地元のコミュニティーバスでも入れるが、そこから三国に向かう例の長い街道歩きは、年寄りには厳しい。それで栗原さん、村田さんに協力をお願いしたのだ。車はどんどん北上、しかしあまり進むと下山口に配車するのに時間が掛るので、経ヶ岳に向かうミゴ谷手前40分ぐらい手前で下車。お二人は車2台で又元の道を戻り、何と針畑川をぐるりと回り、経ヶ岳下山口の桑原に車を置きに行かれる。往復1時間弱の読み。

我々はゆっくり進み、有難いことに、右側には谷ごとに名前を書いた道標があり、予定したミゴ谷入り口の着く。間もなく桑原、村田両人の乗った村田さんの車が戻ってくる。見事な呼吸である。そして我々を送り届けた村田さんは、この後用事があって帰られることになる。全く献身的なご協力。感謝あるのみ。

いよいよミゴ谷に入る。情報通りすぐ左に規模は小さいが美しい滝がある。それを左に見送って踏み跡をたどる。

このミゴ谷から経ヶ岳に登るルートを採用したのは、「京都北山分水嶺を歩く」地図に点線が入っていると、我がRUWVのOBでこの地域に詳しい檀上さんより岩切さんが得た情報による。この地域に詳しい檀上さんより岩切さんが得た情報による。

踏み跡はコンター650m辺りまでは続き、地図通りその辺りで谷は扇状に広がる。ミゴ峠はやや右上と思われるが、点線は中央やや右手の尾根を取りつく様だ。実際にはやや左の谷に入って、右手の尾根に取りつく。植林地帯は何とか踏み跡有り、その先は溝とも何ともつかぬ藪の隙間を必死で登る。ところが直登が困難で、何なく左、南方向に透けている。止む無くそこしか進めず、それでも峠の道の踏み跡かとも思いつつ、左にトラバース気味に進む。藪は猛烈。声を掛けないと誰がどこにいるか全く解らない。只々少しでも上に上がらんとかがくのみ。直ぐ上には稜線が見えている。

ついに斜度が緩くなり稜線に達する。やはり稜線には踏み跡有り。みんなバツタリ座り込んで昼食。そして口を揃えて死ぬ思いを語る。何しろ足は弱いがその分口達者。確かに昔の笹藪時代を除けば、ここは北山最高の強力な藪に間違いなし。稜線は北に向かって緩く下っている事から、ミゴ峠より南に達している筈。事実その後歩いて150mぐらい先に峠らしき朽ちた道標有った。しかしこの峠は100%自然に帰っていると言える。地図の点線を消すべき。

さて北方向からやや西方向にゆるやかな稜線を進むうちに、本格的な登りとなり、山頂らしきピークに達す。経ヶ岳889m山頂である。展望も三角点も独標もないが地図に名を刻むだけあって、山頂の風格あり。これを越すのが本計画の山であり、何となく安堵感を覚える。後はもう少し北へ2～3のピークを進み、北東に下り（丹波越え）針畑川の桑原に下る予定。

ところがわれが進む方向に、何と出来立ての林道が走っているではないか。当然その林道を伝うことになる。林道はジグザグに進むので、思う方向なのか、不安を持ちつつも其の快調さにつられて下る。国道にたどり着いたら、案の定目標の桑原橋より2～3km南の平良寄りだった。気の毒に栗原さんは歩いて車を取りに行かれる。

我々は3～40分待って、栗原さんの車に乗せてもらって、6～7km先の生杉の山帰来宿まで送っていただく。一回で乗れないので2往復。もし歩けば2時間は掛るところ。

本当に助かった。

山帰来の宿は簡便な山小屋で、岩切さんが事前予約して頂いており、実に我々向き、シャワーを浴びて、涼しい野外でコーヒーを飲んで、食事を頂き、一寸飲んで、一部屋に雑魚寝した。疲れていたのも、全員快眠できた由。

12日（日）午後から雨模様と聞いたが、それほど悪くない。

7時前食事、8時前勇躍出発。林道に沿って小入谷に入り、1kmほど進むと右に分かれ、少し進んだところに根来坂峠道入り口がある。そこから本来の旧峠道の始まりだ。栗原さんは、途中の地蔵さんのあるところで林道と出会うので、先に車で行かれる。いうなれば伴走していただくのである。

さすが鯖街道と言われる歴史ある峠道、実に歩きやすく上手に道が着けてある。それに手入れが行き届いている。毎年小浜より京都出町柳までウルトラマラソンのコースであることを再認識する。考えれば、昔は小浜、若狭周辺が大陸文化の入り口、表玄関であったのだ。鯖どころか、象も家康も越えたという峠なのだ。涼しい風は吹くし、片や百里岳方面、湖北の山々も適当にブナ林の間から見える。足元は枯葉の積もった柔らかな道。峠道としては、特に若狭越えの道としては、最高ではないか。

林道に飛び出したら大きなお地蔵さんの祠があり、栗原さんが待っている。勿論大休止。そこで栗原さんも我々と一緒に登るという。峠に達したら、再度戻って、車を駆って峠を越え、根来坂の下りの林道交叉点で待つという。登りは続くが、緩やかな峠道を、そして登りを楽しむの感。それほど快適な道なのである。時折左手に林道が見えるが、気にならず。そのうちに国境（滋賀県、福井県の境、且つ日本海、太平洋の分水嶺たる）根来坂峠に到着。やはり小じんまりしたお地蔵さんの祠あり。若狭から、また針畑から登ってきた人達は、この峠でやれやれとこの祠にお参りされた事だろう。打越さんによれば、「京は遠ても、18里」という言葉が小浜の商店街に刻まれているとか。もっと考えたら鯖に始まり、幾多の物産がこの峠越えて行き来し、それらを運んだ人たちの安全を祈って、この祠を立てられたのだ。昔は他人の安全、幸せを祈ることが当たり前だったのだ。

大休止の後、栗原さんは元気に元の道に戻り、我々は若狭方面に下る。やはり自然林の快適な道だ。道は尾根を下るが林道も下るので、時折林道に合する。適当に林道を進むと、また旧道の入り口が有、旧道に入る。時折栗原さんの車と出会う。全く伴走頂いているのだ。

突如中年のご夫婦に出会う。聞けば兵庫の方だが、何と小浜からこの根来坂を越え、今日中に久多の下町の久乃屋さんに泊まり、翌日は久多から鞍馬まで歩き、一度帰って、また鞍馬から出町柳まで歩くという。全く驚き。どこやらの現役に聞かせてやりたい。下りも急になりいよいよ上根来に近いころ、林道に出合い、栗原さんの車が待機、そこで宿で作ってもらった昼食となる。もう峠は越えたので、気も緩み、再びお口はなめらか、共通の体験を遠慮なく話すのは楽しい。

さて小浜の海岸までどうするか。歩けば2～3時間はかかるだろう。

考えるまでもなく、また栗原さんの車で3人先発。途中、奈良の大仏へお水送りをする神社前を通り、小浜の料理屋を目指す。ところが間もなく夜のために閉店するという。海岸前で先発隊は待機。栗原さんは後発の2人をピックアップに戻られる。その間適当な店を探すが見当たらず。全員集合後、今津まで行こうとなり、二人はJRバスで、4人は栗原さんの車で今津の駅前、西友とい川魚屋の2階に陣取る。バスの二人を待って例の反省会を始める。

酒も旨いし魚も美味しい。それに完走した達成感もあって、話題尽きることなし。加えて今津発の電車の本数少なく、たっぷりし過ぎるほど反省して夕刻の湖西線の乗ったのでした。

最後になりましたが、栞原さんの車による伴走と送り迎え、村田さんの経ヶ岳下山口までの車の配車の手伝いなければ、この計画は達成できませんでした。ここに改めて御礼申し上げます。

北山クロストレイル「鯖街道北上する」

S37年卒 森村 征男氏

6月に入り気象庁は関西地方にも梅雨に入った模様宣言、今回の南北京都から小浜へのトレイルの日程は二転三転した結果、11、12日決行となりました。

また、京都花背峠から久多へのコースは実質9時間半かかり一日では長過ぎて検討をする事になり、先に久多から山越えして根来坂峠を越え鯖街道を北上ときまりましたが、これまた公共交通機関のない事と不便過ぎて悩みの種でした。幸いにも滋賀県在住の栞原、村田両君の車の提供があり事は解決しました。

さて、当日晴れ模様で京都駅から鎌田先輩、打越、西尾、岩切、そして山科から私が乗車して京都7時発の電車で堅田へ。栞原、村田君のお出迎えで一路久多上の町へ行きました。栞原君は、下山後の車移動を考えて朽木の桑原にデポする為に村田君に往復させて、5人はミゴ谷までゆっくりウオーミングアップして栞原君を待ちました。あれこれ気持ち良く協力してくれた村田君有難う。

6人がそろい、いざミゴ谷へ。やはり伐採による倒木は多く、道は定かでない。半分以上登ってから右側の尾根を上る事となり、登るにつれ滑る源頭の岩と植樹された檜の若木にはばまれましたが、流石鎌田さん、この密生した木々を猛然と進むのは80才の年を忘れているのではと思いました。とにかく4、5メートルも離れると姿がわからぬほどでしたが何とか稜線に出て昼食となりました。流石ワングル、早速に味噌汁もでき、食後にはコーヒーとうれしい限りです。

次は経ヶ岳、始め北方向でしたが西北方向へ切り返しミゴ越えに出て、あと頂上7、80m下からは全くの直登でした。経ヶ岳を下ると、ここは京都、滋賀の県境尾根に滋賀県側に林道がありそのまま道沿いに下り、高島トレイルとの合流点に来てトレイルの道は定かではなくそのまま林道を下りましたが、針畑川に出て予定の桑原からかなり下流であることが分かり、栞原君は車を取りに行き、生杉（おいすぎ）までピストン。私と打越は冷たいビールを片手にブラブラと歩き栞原君の迎えを待ちました。

生杉の宿「山帰来」はこじんまりしたどうやら旧朽木村の第三セクターの様でスタッフも感じの良い人でした。到着後、直ぐにシャワーを浴びサッパリして、やはり気の利く栞原君からのビールを飲み今日一日の山行を振り返り、夕食で乾杯、労をねぎらいました。80才一人、77才二人のメンバーには「若い」ともいわれ川には蛍も出るとか、土地の話やらで談笑し10時には皆、おとなしく寝ました。

翌朝は曇天、何とか一日雨が降らんことを祈る。お年寄りばかりで、皆さん早起きですので朝食前に「カフェ クワハラ」が始まりモーニング、私はちょっとお絵かきしている間に朝食の用意もでき、予定より早い出発となりました。

「山帰来」の皆さんともお別れして、百里ヶ岳方面の川に沿い「鯖街道」と明記された道標のある登山口から登ることとなりました。過って百里ヶ岳へ登り帰りの下山道でしたが当時は林道もなく静かな山だった。途中の祠に出て、また栞原君が待ち、根来坂峠まで同行することになり にぎやかな歩きとなりました。根来坂峠は変わりませんが、お地蔵さんの祠もかなり古ぼけていましたし、もっと大きかったとおもいました。ここで大休止を取り、栞原君はまた車の元の道へ戻り、次の休憩点で待つことで別れ5人は上根来へと下りました。また途中でも林道と交差していましたが、下からの夫婦一組が我々とは全く反対で、忠実に鯖街道を歩き、京都出町柳までと聞き「まあ ご苦労さん」と思いました。最後は緩いジグザク道を下り下山、ここで昼食。またみそ汁付きで弁当を食べ、小浜へ栞原君の車で。西尾、岩切君は迎えの車が来るまで、小浜に向かって歩き始める。小浜湾近くの最近は行ってないが、よく昼ごはんを食べに行く小料理屋へ止めたが残念、時間切れで断られ、栞原君は再び上根来へ二人を迎えに向かい、日本海をバックに一同記念撮影。

仕方なく今津のうなぎ屋で反省会と決まり、栞原君、鎌田さん、打越と私が車で、また西尾、岩切君はバスで今津行きとなった。車組は時間的余裕もあり、ワングルは文化部なので小浜北川沿いのスーパー農道を走り、名水百選に選ばれ冷たい「瓜割の水」を飲み、旧道から「熊川の宿」を訪ねて、一路今津駅前のうなぎ屋でお勧めの鯉の甘煮をつつきながら二人を待つことにした。一同揃いまず「日本海まで来た事、皆無事に元気で完歩でき、あとは残る課題を秋に決行する約束で」乾杯をしました。湖西線は時として一時間に一本しかないとかで、ゆっくりと反省会が出来ました。どんよりした雲もとうとうパラつきだし、京都に着けば本格的に雨でした。

こんな山行、時として苦労あれど楽しく愉快に旅ができた事、また栞原君が要所要所でサポートしてくれた事。 本当に感謝いたします。そして残された花背峠から久多までまたよろしくお願いします。そして、今回やその前もコースや宿、皆さんへのメールなど全て段取りしてくれた岩切君には頭が下がります。本当にありがとうございました。これからも宜しくお願いします。

北山クロス 南北縦断コースに参加して

S37年卒 打越 啓佑氏

北山クロストレイルの南北コースの1回目が6月11に（土）と12日（日）一泊二日で実施された。この季節、北山の山旅は快適とは言い難い。藪山、山蛭のその他藪蚊にブト等不快さの極みであろう。そんな事は百も承知でも誘われると「OK」と答えてしまう。それほどRUWV OB会の仲間との山行は愉快で楽しい。

コースは初日、久多川上流部ミゴ（見後）谷から経ヶ岳を越えて針畑川源流生杉（オイスギ）へ生杉の山小屋で一泊し、翌日は根来坂峠を越えて若狭の上根来に至る。地図上は直線距離ならば15km程の山旅である。メンバーは、鎌田ウルトラOB、森村氏 栞原氏 西尾氏 岩切氏と小生の6名、いずれも山慣れたウルトラ老人、平均年令は70才以上。

1日目、7時30分湖西線堅田へ集合、滋賀在住の栞原氏と今回車を提供してくれた村田氏の車に分乗して久多上の町ミゴ谷まで。栞原氏は翌日の移動に備えて車を生杉近くにデポし、

再び村田氏の車でミゴ谷まで送ってもらった。（村田さんご苦労様でした）ミゴ谷を遡上する事約2時間の悪戦苦闘、敵はブッシュ、山蛭、急斜面、高温多湿息も絶え絶えで稜線へたどり着いたのは昼前であった。今思えば、この最初の2時間が苦しかったので後のルートは楽なので、2日目などはコースリーダーを務めてくれた岩切氏から「コースタイムより早いですよ」とオーバースピードの警告が出た程であった。とにもかくに全員無事でゴールまでたどりつき「めでたし、めでたし」の山旅であった。

根来坂峠越えは私にとって、もう20年近く昔、百里ヶ岳下山路にこの峠を京都側へ通過した時、その名前の響きの良さ、あるいは鯖街道の歴史的背景等から一度は若狭側へ越えたいものだと考えていた。今回長年の念願が実現し実に嬉しかった。

この後、今回コースの南の残された部分を最終ゴール京都まで秋に計画すると岩切コースリーダーが宣言したので2分割であれ3分割であれ日帰りであれ、一泊であれ何としても参加したいと思っている。

忘れるところであった。詰め反省会は今津の駅前の川魚料理屋で恒例により実施された。湖西線の本数がすくない事を好い事にして、随分銚子がころんだようでした。

ワングルOBチームが経ヶ岳、荒れ谷に行く！

S45年卒 栗原 喜平氏

近年、北山一帯の山野は、どこも・かしこも切り捨て間伐の杉・檜が散乱していて、林道が自然植生を無視してどんどん造られています。まるで、使い捨てのカーペットでも敷いた様に・・・。

それに、山を包んでいる表土は、痩せてきて、昆虫などの生き物やコケ類も、多くは見かけません。そんな中でも、高島トレイルの相当部分は、ブナ類を主体とした落葉広葉樹の森が残ってくれています。雪の残る早春や、紅葉・落葉の季節がトレイルに最適です。

今回、老人OBチームの一泊二日の山歩きは、枯れ木も山の賑わいのコトワザの通りで、大変な賑わいとなりました。中間山地のそんなに高くない山々は、人間がいろんな目的であっても、ヒトが踏み入ってこそ、そのヤマの姿が生き続けられるものではないでしょうか。多少の擦り傷や、野ビルに余った血を吸われた位は愛嬌、愛嬌。

ゴールの、JR湖西線今津駅での楽しい反省会の後、車をパーキングに放っておいて、皆さんと一緒に一駅乗り、そこでお別れしました。駅からの帰り道、小雨降る中、トボトボ歩いていてふと、高村光太郎の道の一節が頭に浮かびました。

僕の前に道はない
僕の後に道が出来る
ああ自然よ
父よ
僕を一人立ちさせた広大な父よ
僕から目を離さないで守ることをせよ
常に父の気魂を僕に充たせよ

この遠い道程のため
この遠い道程のため

.....

それなのに やっぱ此が命に導く道だった
そして僕は此处迄来てしまった
此のさんたんたる自分の道を見て
僕は自然の広大ないつくしみに涙を流すのだ
あのやくざに見えた道の中から
生命の意味をはっきり見せてくれたのは自然だ
これこそ厳格な父の愛だ

.....

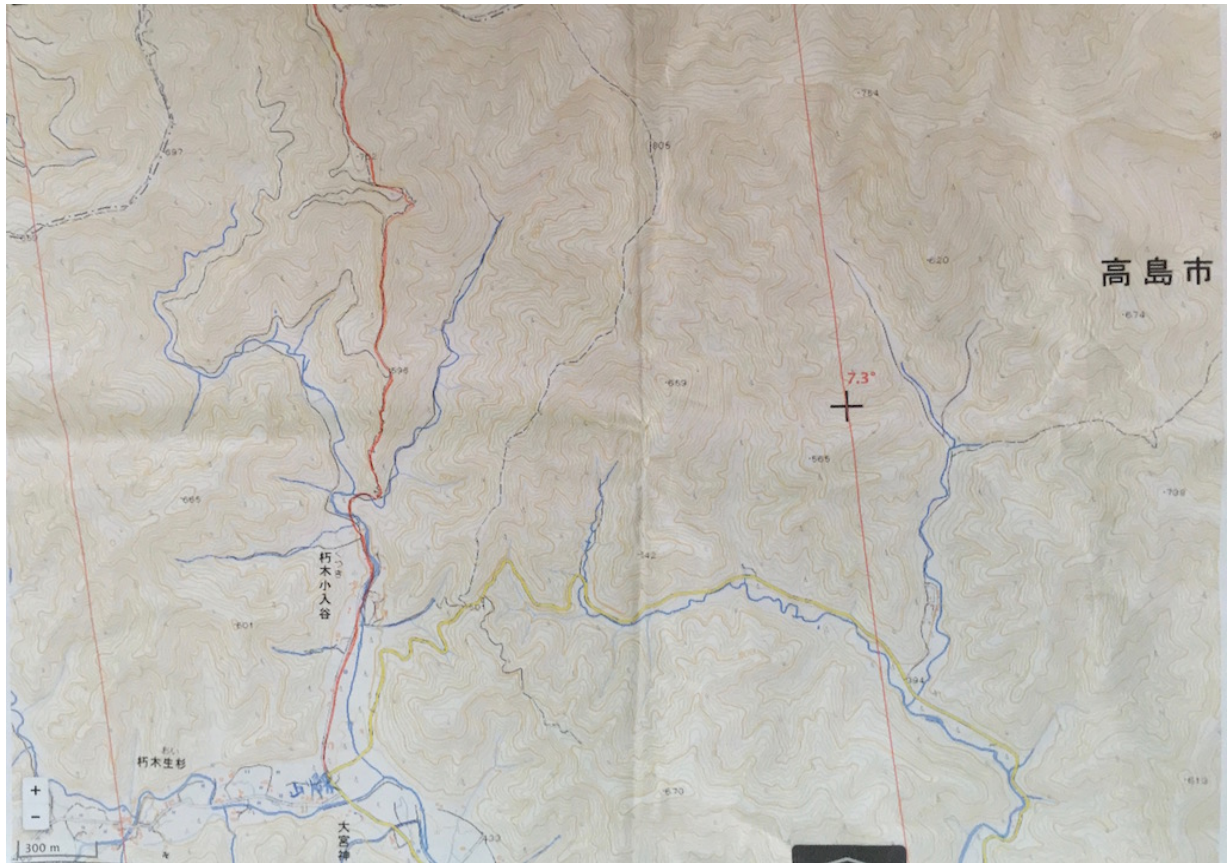
歩け歩け
どんなものが出て来ても乗り越して歩け
この光輝く風景の中に踏み込んでゆけ

.....

人生の歩みを、この道のり(行程)に重ね合わせて見る。
そして不要・不急・悪しきものは、片っ端から始末して身軽になり、新たな希望や道を目指して、ゆっくり歩んでゆこうと思う。

私の山歩きは、起点へは、戻らない様にしている。
何故なら終点は、図らずも次の出発点に繋がるからだ。





第七回(最終)トレイル 縦断コース(花背峠～久多)報告

山行日	2016年10月15日(土)、16日(日)
参加者	S35卒 鎌田 克則、S37卒 森村 征男、打越 啓祐、S47卒西尾 憲次、 S48卒 岩切 徹
コース	一日目 花背峠―杉峠―滝谷山―P845―P877―P771―小野谷峠―猿橋峠―P665― P680―P643―交流の森センター 二日目 交流の森センター―古道の森―天神の森―緑風の森―こもれびの森― チセロ山トラバース―林道―俵坂峠―展望ベンチ―峰床山―オグロ峠― オグロ坂―久多

鎌田さんの企画で始まった北山クロストレイル、2年がかりで歩いて来ましたが、今回のトレイルで完結です。フィナーレを飾るにあたり、過去に参加された皆さんに参加してもらいたかったのですが、体調を壊されたり、私用で都合がつかない方もあり、5名で歩くことになりました。

縦断コースは、当初予定では、花背峠から大見町、尾越、八丁平、久多を経由して小浜まで予定していましたが、花背峠から久多までの距離が長いのでコース設定が難しく、季節も考慮して先に久多から鯖街道経由で小浜まで歩いた。

今回の最終トレイルは、残りの花背峠から久多まで歩きました。
参加者の平均年齢が70歳を越しており、一日で久多まで行くことは困難と判断、花背の都市交流センターで一泊して花背峠から久多まで歩くことにしました。それに伴いコースも変更しました。

1日目

初めて花背峠でバス下車しました。

登山道の入り口に鯖街道の標識が有り、いよいよ最終のトレイルがスタートしました。

杉峠、和佐谷峠付近に来ると、横断コースの四日目、花背高原から和佐谷峠への道が荒れていて途中の稜線に出て、また百井キャンプ場への下り道を解らず、強引に下山した所だと参加者から説明が有った。滝谷山ピークは、魅力的でなかったので通り抜けてしまった。

P845付近までは立派な林道だが、P845ピークへの道が分かりづらい。林道をそのまま行くと大見町林道に繋がっている所以要注意が必要です。

ここから小野谷峠までは、誰も歩いた経験がなく踏み跡程度の道で心配していたが迷うことはなかった。一日目の最高峰P877で小休止して記念写真。この先、所々紅葉が始まっていた。

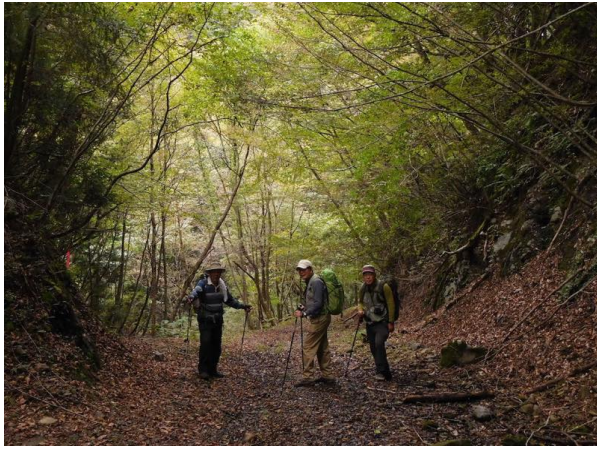


P771で昼食を取り、下って行くと東西に伸びる道を見つけ、ここが小野谷峠でした。



猿橋峠からは、チセロ山経由で交流センターに行くコースもありましたが、無理をせず踏み跡道を直接、交流センターに下山した。交流の森に入って「そぞろ歩きの森」に至るととても急な階段道が延々と続く。何が「そぞろ歩きの森」かと不満たらたら、いっぺんに疲れてしまった。これで翌日に影響が出ることになった。

16時、翠峰荘に到着。早速、風呂で汗を流し階段で疲れた足を癒した。



ここ翠峰荘は、来年のRUWV創設60周年記念会場として利用する予定の施設です。ゆったりしたスペースに、6人部屋がかなり広くゆったりと寝ることができました。夕食は、「丹波赤地鶏すき焼き」を食べましたが、大変美味しくて量も有りました。記念式典の食事として、これも選択の価値があると思います。



2日目

今日も良い天気です。夕方から天気が崩れる予報だが、下山するまではもつだろう。今日は、最初の出だしが当日最難関の古道の森から天神の森までの240メートルの急登。高齢者には、きつい登りは堪えるのです。しかし、無理をしたわけでもないのですが、何とかコースタイムより早く登り切ることができました。おそろべし。

あとは、稜線道を淡々と峰床山から八丁平を経由してオグロ峠から下山するだけとなりホッとする。



緑風の森からこもれびの森へ。安心したのか休憩間隔も短くなりペースが少しづつ遅くなって来た。当初は、チセロ山から稜線に行く予定でしたが、トラバース道があるのにわざわざチセロ山に登ることはないとトラバース道を林道合流地点まで行く事になった。

トラバース道は、砂利道で歩きづらい。その内に、森村さんが昨日の急な階段の下りで左太ももの裏を痛めていたことも有って、少しずつビッチが落ちて来た。

林道合流地点では、2日間で初めて登山者に出会った。25日開催される花背トレイルラン参加のランナーで下見に来たとの事。どこでもトレイルランが増えていますね。

俵坂峠への道標は、とんでもない所につけられていた。林道から振り返った高い場所に立ってあって、そこへの道も斜面に申し訳程度の道がつけられていた。事前にトレイルランナーに聞いていたので見つけることができましたが、そうでなければ見つけることはできないと思います。

俵坂峠への急登を登り、展望ベンチへ。いよいよ持ち時間がなくなって来た。西尾さんにオグロ峠から先に下山してもらう相談を始める。峰床山は初めての山で栈敷ヶ岳の頂上と雰囲気似ていました。集合写真を撮ってオグロ峠に向かう。



八丁平に寄りたと思っていたが、その時間もなく、また八丁平も昔の面影がなさそうでした。オグロ峠についたら、待合せ時間までコースタイムの時間通りの1時間40分。西尾さんに先に行ってもらう様にして、早々に下山開始。



この下りは、地図で見るとかなり急で心配していたが、ジグザグに道が切っており助かった。鯖街道を牛で荷運びをしていたので、こんな緩やかな道が作られたのだろうと話しながら下山しましたが、利用者が少ないのか道は荒れていました。

西尾さんが見えなくなったころ、突然谷を通過する登山道が陥没していた。前に道は見えるが、深くえぐられていて、渡れそうにない。私は、東に寄りすぎて下山している様に感じていたので、道を間違えたのではないかと思った。

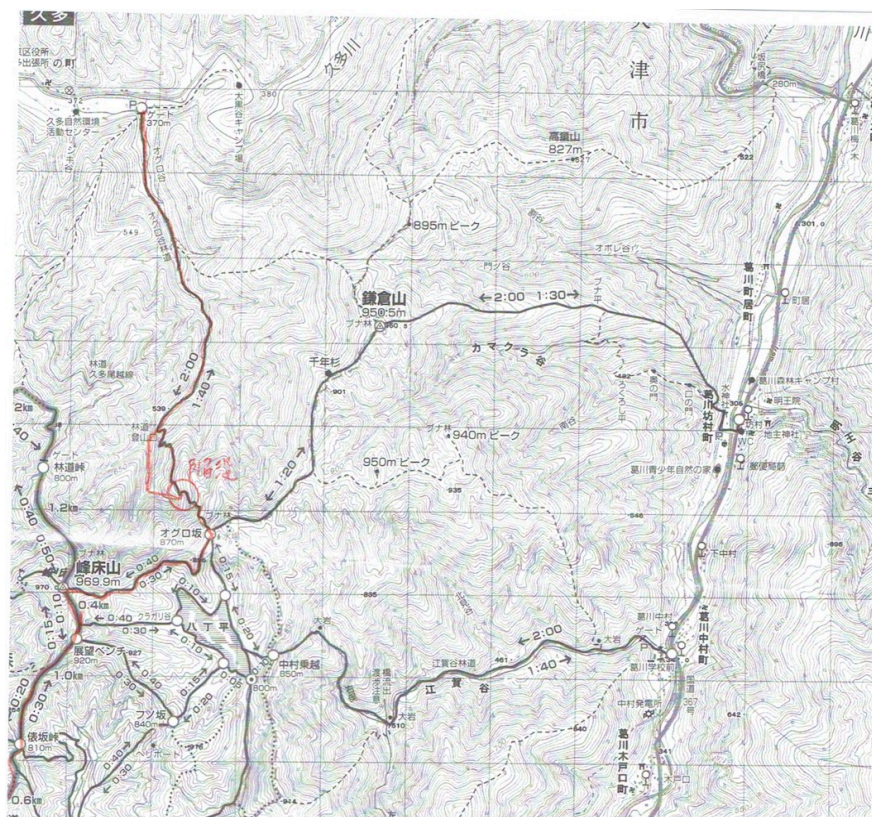
西尾さんは、渡渉して何とか対岸に渡り、登山道を下山したとのことでしたが、残りのメンバーは、谷を西に下り、別の谷と合流してしばらくすると対岸に道を見つけて、よじ登って一休み。待ち合わせ時間が迫っている中、余計なロスタイム。その後は、見つけた道を下って行くと正規の登山口を見つけてホッとした。

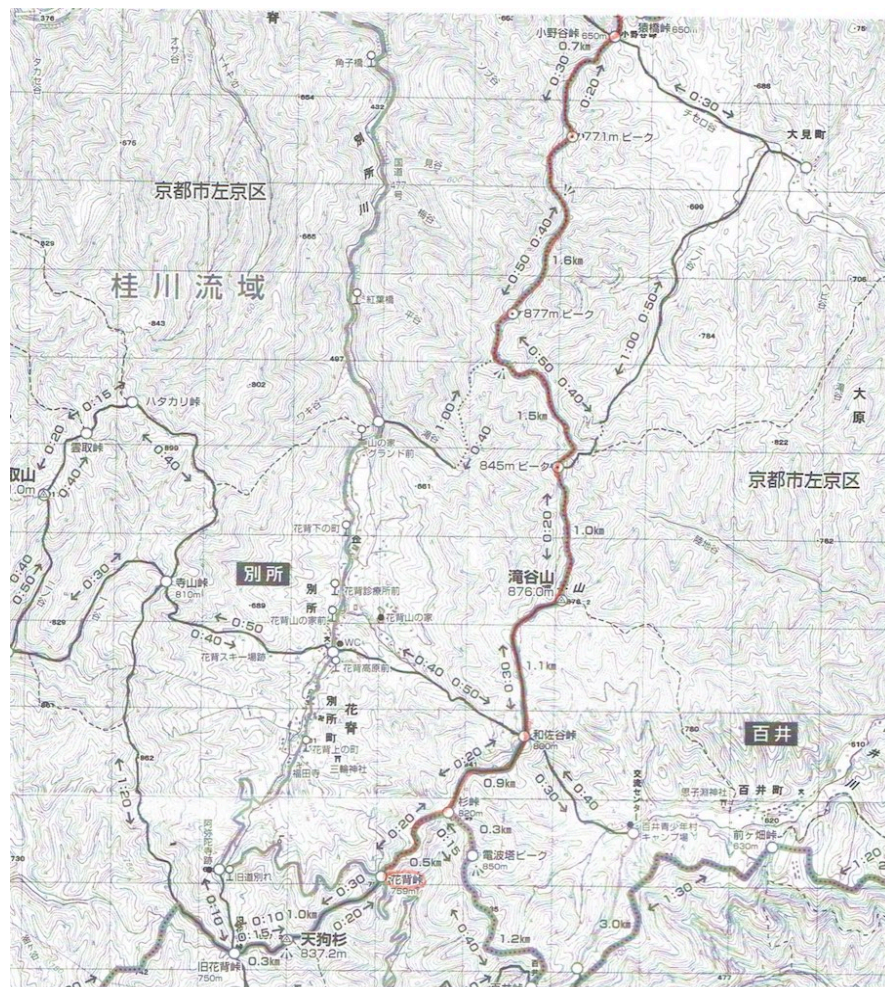
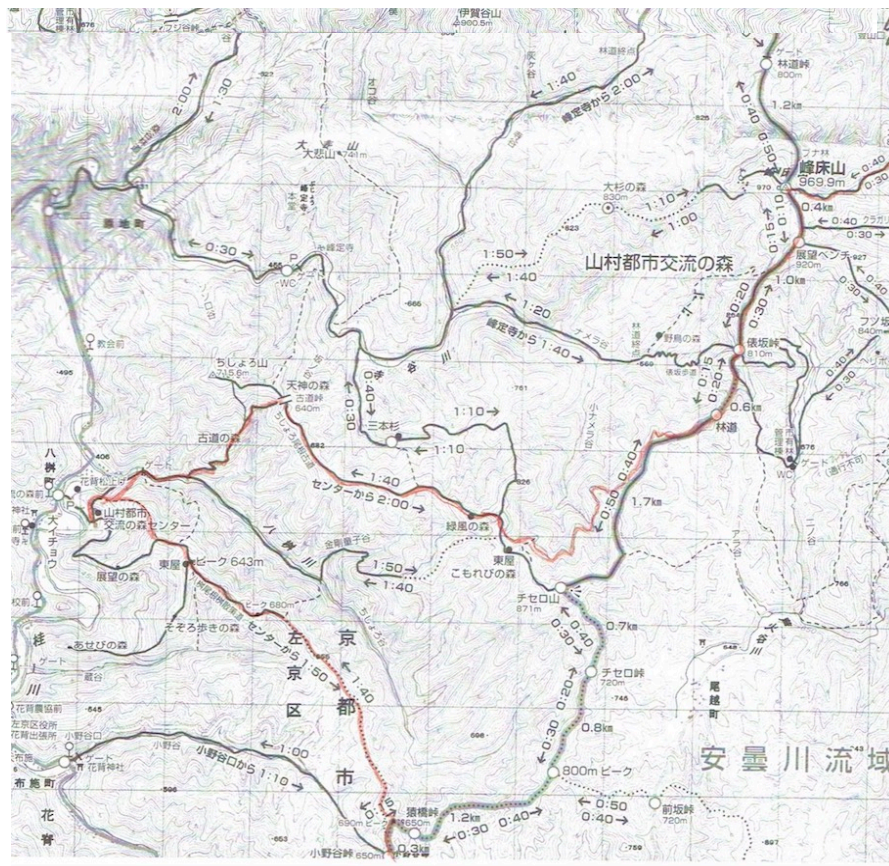


長い林道を下って行くと、途中まで栗原さんが迎えに来てくれていて助かりました。
西尾さんは、待ち合わせ時間に間に合ったそうです。



前回打ち上げを行なった今津の西友で打ち上げ、うなぎ弁当を食べて、帰途につきました。
栗原さん、サポートありがとうございました。





第一回読図勉強会

下記要領で現役とOB合同の「地図とコンパスを使った読図勉強会」を実施しましたので報告します。

日時	6月28日(日) 衣笠キャンパス 以学館 2F 23号室		
参加者	S35 鎌田 克則、S37卒森村 征男、打越 啓祐、S47卒西尾 憲次、S48卒岩切 徹		
現役	2回生	政策科学部	本郷 大樹さん
	1回生	情報理工学部	澤 豊文さん、阪田 大樹さん
		理工学部	松ヶ谷 玲弥さん
		法学部	浪松 紘平さん
		文学部	亀坂 岳広さん、林 春風さん

装備	地図は準備しますので、磁石の持参
講師	S35卒鎌田 克則さん

勉強会内容

「座学」

- ・地図とコンパスの基本的な使い方
- ・それを使った読図の方法

「実地訓練」

- ・衣笠キャンパス～原谷～沢池

天候が心配でしたが、曇りから晴れになり楽しく実地訓練を行う事が出来ました。

10時に以学館 1Fに集合、2F 23号室で座学を行いました。

まず、鎌田さん準備の資料を配布。

鎌田さんから経歴紹介後、経験を踏まえて地図の概念、重要性の説明して頂きました。

地図も進化しているし、スイスの地図も持参され、地図にも色んな物がある事を紹介して頂きました。その後、読図の大切さ語って頂き、最後に地図とコンパスの使い方について説明をして頂きました。



昼食は、生協が営業していないためにコンビニ弁当を買ってきて、スクールバスの待合椅子に並んで食べました。

午後の実地訓練は、現役にコース選定、リーダーを任せた所、沢池まで行くとの事であわてた。OBは、左大文字の登山口の確認を兼ねて左大文字界限で実地する予定でした。



夕方までには、帰って来れる様に一緒になって細かいルートを検討して、いざ出発。

実地訓練では、先頭歩きをする担当者を交代しながら沢池に向かう。

コースは、堂本美術館～西園寺記念館からP122の手前から山道に入り、原谷を抜けてP466の取り付きの原谷弁財天に向かう。

衣笠山への登山口は宅地で無くなっており、西園寺記念館の手前の小学校のグランド柵の横に登山口が変わっている様でした。



いよいよ本格的な読図開始の為に、再度コースの確認を行う。

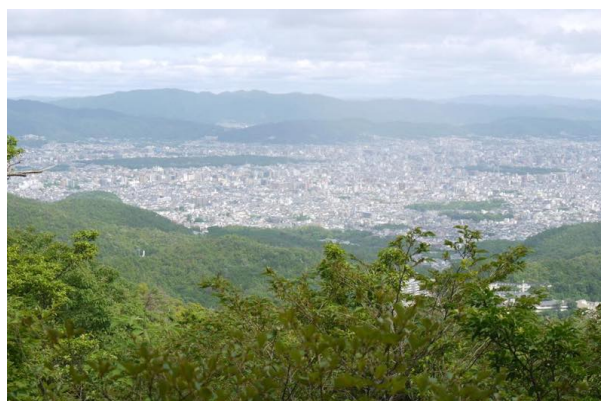


P466への急登は、まさか今日、こんなきつい所を登る事を想定していなかったのも、OBは
やっとの思いで付いて行った。

現役は、強い。P466には、桃山の道標が付いていた。



少し下った所に、すごく展望が良い所があり京都市内が一望できた。



P408へは、小さいピークを越えて行く道もあったが、ここはトラバースしてP408へ到着。
現役は、沢山へ行くというので途中で別れて、OBはゆっくりと沢山への分岐の所で待つ事にした。



沢池は京都トレイル・コースになっているが、誰一人いなくて静かだった。昼から衣笠キャンパスを出て、良くここまで来たもんだ。夕暮れが迫っていたので、帰りを急ぐ。



P289への下りは、岩が滑り、道も真ん中が侵食され深い細い道になって歩きづらかった。最後の原谷への分岐の所で急で深くて水が流れていたなので、多分違うだろうと思い(読図を怠った)、良い道を下って行ったら御室川の上流(下ると天神川)に出て三宝寺へ下り、道を間違ってしまった。

当初の予定は、原谷に降りて仁和寺の裏に出て衣笠キャンパスまで歩いて帰る予定でした。やむなくJRバスで立命館大学前まで戻った。

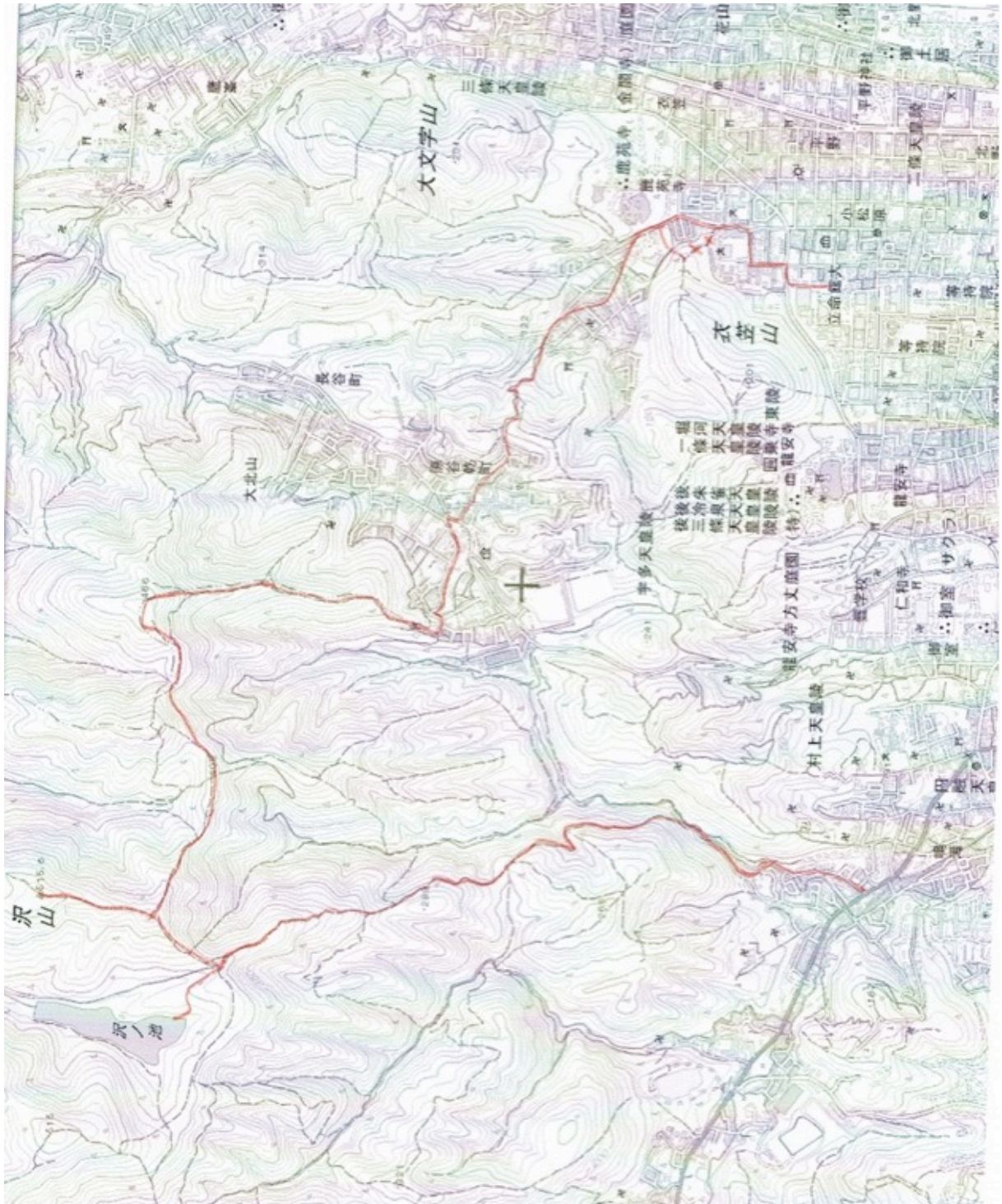
その後、東門の食堂で反省会をしてお開きとなりました。



現役とは山小屋ワークキャンプで一緒にいる事はあるが、作業が有りあまり話す機会がなかったが、今回は座学に加え約6時間の読図の実地と丸一日有効な現役との交流もできました。現役も読図だけでなく、今までの山行と違う北山を楽しんでもらえたのでは無いだろうか。今後も、北山を歩き通して欲しい。

次回は、OBが企画している、例えば北山クロストレイル等に参加して、活動を通じた交流

ができれば良いかと思います。



第二回読図勉強会

山行日	2015年9月12日(土)	叡電「二の瀬」集合
参加者	S35卒鎌田 克則、S37卒森村 征男、打越 啓祐、S47卒西尾 憲次、S48卒 岩切 徹	
現役	1 回生	法学部 服部 侑馬さん 文学部 亀坂 岳広さん(2回目)、田中 鈴夏さん 理工学部 松ヶ谷 玲弥さん(2回目)

コース 二の瀬ー二の瀬ユリ貴船山ー滝谷峠ー芹生峠ー旧花脊峠ー峠下一鞍馬駅

現役との合同企画「第二回読図勉強会」において新ルート開拓を行い、大成功！のもとに終わりました。久しぶりに9時間歩いた。疲れました。

現役は、夏休み中にもかかわらず4名が参加してくれました。

今回のコースを発表したら、鎌田さんから「ようこんなコースを考えるわ〜、このコースを歩けたらどこでも歩ける！」と言われた難コースでした。

特に芹生峠から旧花脊峠までは、尾根が入り組んでいる。コース設定した当人も無事歩けるか心配だった。

9時、叡電「二の瀬」に集合。

しかし、鎌田さん、森村さん、打越さんは、1時間前に出発して、滝谷峠で合流することにした。現役会員には、読図勉強会 2度目の参加者もいて頼もしい。

9時10分、出発。



今回は、二の瀬ユリの道のりが長かった。皆に聞いても「長かった〜」とのコメント。時間を稼ぐはずが、逆にロスタイムを抱えてしまった。やっとの事で夜泣き峠からの道と合流。コースタイム・オーバー。神戸大学山岳部OBで立命ワンゲル小屋にも泊まった事がある方がいて、森村さんに「鍋をごちそうになった。宜しく伝えてくれ」との伝言を預かる。貴船山へのルートは、以前に歩いたときと感覚が違う。谷筋に新道が出来ていて、そちら側が本道となっている。しかし、旧道の方が尾根道で良かった気がします。

貴船山に行く途中、道が崩壊して高巻きする所が一カ所。

以前は、貴船山への分岐に道標があった記憶があったが、今回は無かった。

コースタイムをオーバーしているのに、立ち寄るのを止めて、鎌田さん達が待つ滝谷峠に急ぐ。
なんとかコースタイムで到着。



昼食を食べながら、「二の瀬ユリは、長かったな～」と皆、同じだったのだ。
鎌田さんは、「昔は地下足袋で、この道が水平に見えた」と、啞然とするばかり。
いよいよ読図開始。

滝谷峠～芹生峠

地図上は、道が無いが、記録を読んでいると踏み跡は期待できる。

先発した、森村さんが赤テープを付けてくれているし、古いテープもあり、迷うことなくすんなりと芹生峠への稜線に着く。峠へは、伐採された所に張られた網に沿って下ればすぐだ。

先発した鎌田さん達が、すでに難コースの芹生峠から尾根の取り付け場所を探して、待っていて頂いた。



芹生峠～旧花脊峠

いよいよ今回の難コースが始まる。

ここからは、現役会員が先頭を歩き、ルートを取っていく。

尾根道が90度曲がっていて、コンパスと地図と睨めっこしながら慎重に進む。踏み跡らしき跡があるがはっきりとしない。前半の難コースを終えて穏やかな稜線歩きになって来てホッとしたら、読図が甘くなってきた少しふらふらとなる。皆で読図をしてルートを確認していくが、下りで少し左寄りに下り谷に落ち掛けて、慌ててルートを戻す。



高圧線が見えて、先が見えて来たので大休止。ここで本日初めてコースを間違える。

出発の際、進む方向の意見が分かれた。

GPSを信じて進み始めたがどうも方向が違う。すぐに引き返して正ルートに戻る。「ルートを間違えるのは当たり前。それに気付いていかに早くコースに戻るかが問題だ」と鎌田さんのお言葉。

後は、高圧線下の道を求めて進み、旧花脊峠への林道が見えた。

新ルート開拓 大成功！

下り始めると地図にない左から新しい新道が見える。右にも林道が見えるが荒れている。新しい道を行っても芹生からの林道に合流するだろうが、右の道が本来の道と判断して下ると京見坂当たりで芹生からの林道と合流。あとは、淡々と旧花脊峠まで歩く。

15時40分旧花脊峠に到着、すでにバスの時刻は過ぎている。昔の花脊高原16時半位のバスがなくなり、花脊峠15時過ぎになっている。仕方なく峠下へ下り、あとはいやなロードを鞍馬駅まで歩くことになる。



疲れた体にアスファルトの下りは堪える。
1時間掛けて到着。すぐ発車の電車で飛び乗り
ヤレヤレである。周りを気にせず着替えを始
める。

打ち上げ(反省会)

予定していた店が、週末で一杯。近くを探していたら2階の個室が確保出来た。とりあえずビールで乾杯。長ったコースを思い出して団らん。前回に続き現役会員とゆっくり話が出来る良い機会です。ワングル談義となり21時頃にお開きとなりました。

次回は、現役からコース企画をお願いしました。

現役は、四国の石鎚山に行きたいとの事。(先日会った会員も行きたいと言っていました)是非、四国在住のOBの方、企画、同行して現役とのふれあいをお願いします。



現役会員からのコメント

感想

今回の読図講習会は登山道の整備されていない箇所を進むなど、前回よりも進んだ内容でその収穫も大きかったと思う。これから場数をこなし、更に読図の精度を上げていきたい。またパーティーの先頭を歩くことによって、全体のペースを把握することも大切だとわかった。来年度後輩を迎えるまでに引率者の注意すべきことなどを学びたい。

感想

開始早々に体力が尽きてしまい、体力不足を痛感した。

読図に関しては、しっかりと地図を読んで歩く行程だったので、個人的には良い復習になった。ただ、久しぶりだったので、感覚が鈍っていたようにも感じたので、その辺はもう少し練習する必要があるだろう。

感想

地形と地図とをしっかりと照らし合わせて考えることができず道を間違えてしまったり、後続を確認しないで進んでしまったりなどと反省すべき点は多々あったが、今まで歩いたことのない迷いやすい場所を歩くなど貴重な体験ができ楽しかった。次は今回の反省を生かした山行にしたいと思う。やってみたいこと ロープワークなどの技術も詳しく学んでみたい。

感想

読図講習会は二回目の参加だったがあまり率先して行動することができず、何度か現在地がわからなくなってしまった。これからの活動を通してもっと勉強していきたいと思った。また、下山後の反省会でOBの方々から山についていろいろ話を聞くことができ楽しかった。昔から山に登っている先輩方に相談できる良い機会だったのでまた参加したいと思った。

OBからのコメント

広瀬 孝慈氏

皆さん ご苦労様でした。私はバテバテでした。
ヒルがいるのでは、沢も歩くのではと考え、長靴で行ったのが大間違いでした。
登りで脚踏ん張れず、脚全体が突っ張って来てしまいました。何とか9時間歩き通しました。
読図についても集中できず、申し訳ありませんでした。
次回 は集中したいと思います。
旧花背峠から峠下までの沢下り きつかったです。

鎌田 克則氏

昨日は大成功でしたね。
何しろ距離は長いし、道のない滝谷峠より芹生峠、より困難な花背峠まで、現役、OB共々、地図と磁石を頼りに達せられたのですから。岩切さん本当にお世話様でした。
これは現役にも有益だったと思うし、われわれOBも刺激を受けた。老いも若きも大いに楽しかった。これがワングルの理想ではないのか。そして何より驚いたのは、最終のコンパで、現役より「パーワンて何ですか」という質問が出たことだ。この一言で、今の現役には、我々の伝統がまったく引き継がれていないことに驚いた。
何のことはない。我々がどうやってワングル時代を過ごしたかが全く伝わっていない。それと彼らが本を読んでいないことも驚かされた。即ち昨今、ハイキングや百名山とか、山の案内書が氾濫している。ネットからでも生の情報が集められる。
よって我々のように情報不足で、いろんな記録や、山岳図書に触れて、思いを膨らませる必要が無いのだ。今と大きな違いである。よって現役とOBが行動を共にし、原点において語り合う機会を作る必要をつくづく痛感しました。
今秋OB会の総会が開かれますが、単に屋内で討議し、交流を深めるのも良いが、加えてOB会の一つの大きなテーマとして、山小屋ワーク以外に、OBと現役がともに参加できる大きな企画（たとえば北山クロストレイルとか、四国石鎚山とか）を立てて呼びかけてはどうか。それこそ「行動してこそワングル」、行動しながら、現役、OBそれぞれの立場、環境、意見交換できる場があっても良いではないか。
たった1日の行動でもお互いに有益だありましたぞ！！

森村 征男氏

今回の読図勉強会は、鎌田先輩の提案で、年寄組は若い元気な現役とスタートしたのでは芹生峠まで遅れると予想し、1時間前に二の瀬を出ることにしました。

私としては、芹生峠を通る度に一度はこの尾根を歩きたいと思っていたので、この度に思いもかない良いコースでありました。今回の読図会の詳しくは報告通りです。旧花背峠も現役時代は花背のスキーが終わり、フウフウ云いつつ超えたことを思わせますが、今や伐採のための林道工事で峠の景観は一遍していましたが、下りの道も廃道と化し荒れ放題でした。最期のロードはバスがないのは承知でしたが、こたえました。それでもこの日、3万歩強を歩けたことは、この歳で年寄組がまだまだ健在であり、元気である事を感謝したい。



北山クロストレイルを歩き終えて

北山クロストレイルの踏み跡

2年間に渡り、横断コースを5回5日、縦断コースを2回4日で無事、北山クロストレイルを完歩することができました。これだけの長いコースを計画して、日数をかけて歩いたことは初めてで、良い思い出となりました。

京都北山は、ホームグラウンドと言いながら、いかに歩いていなかった事か、改めて知らされました。林道が出来、道は荒れていますが、北山は我らのホームグラウンド。体力的にも無理なく歩ける山です。まだ歩いていないコースが沢山あります。機会を見つけて歩き続けて見たいと思います。

京都北山クロストレイルは終わりましたが、鎌田さんから新しい企画「Enjoy Walking !!」が提案されています。北山クロストレイルよりも参加しやすい企画になっていますので、多くのOBに参加して頂きたいと思います。

今までは、仮称「北山クロストレイル」としていましたが、完歩出来ましたので正式に「北山クロストレイル」と称したいと思います。

<横断コース>

1回目 2015年5月30日 参加者6名(後日、鎌田さんトレイル実施)
保津峡・原一愛宕山一愛宕裏街道を愛宕道に下山して、細野

この後、北山クロストレイルが6回も続くとは、思いもよらなかった

2回目 2015年5月30日 参加者7名
細野口一滝又の滝一余野分岐一P550尾根取り付き一河原峠一東俣取り付き一
東俣(P670.5)迂回一茶吞峠一鳴野堂・竜ヶ坂一中江橋一周山

藪漕ぎが楽しかった

3回目 2015年10月3日 参加者8名
周山一茶吞峠一天童山一飯森山一城丹国境尾根一ナベクロ峠一棧敷ヶ岳一薬師峠一
岩屋不動

茶吞峠へのアプローチに四苦八苦、大笑いの道間違いがありました。
この間、ナベクロ峠から祖父谷峠探索、灰屋川本流の遡行調査を行い、芹生
集落までのコースを確認しました。このルートを開学WV女子パーティーが予
備合宿で踏破。

4回目 2015年11月21日 参加者4名

花背高原一和佐谷峠一百井キャン場一天ヶ岳一寂光院道一大原

肩を痛めて、直前に参加断念、完歩逃す

5回目 2015年12月12日 参加者7名

大原・野村別れ～仰木峠～水井山～横高山～玉体杉～延暦寺～大比叡

鎌田さん、風邪を押しての参加で、横高山で苦しむ

<縦断コース>

6回目 2016年6月11、12日 参加者6名

一日目 久多・上の町一ミゴ峠一経が岳一丹羽越え一桑原橋一山帰来

二日目 山帰来一小入谷一鯖街道一根来坂峠一上根来一小浜

ミゴ谷の藪漕ぎは、生半可な藪漕ぎではなかった

7回目 2016年10月15、16日 参加者5名

一日目 花背峠一滝谷山一小野谷峠一猿橋峠一山村交流センター

二日目 山村交流センター一古道の森一天神の森一こもれびの森一峰床山一ネグロ峠一
ネグロ坂一久多

交流センターに一泊する事により、歩ききりました。

全区間完歩された方は、

S37卒森村征男さん

S37卒打越啓祐さん

S47卒西尾憲次さん

の3名です。おめでとうございます。

「北山クロストレイル」 歩き終えた感想

北山クロストレイルを終えて

S35卒 鎌田克則

北山クロストレイルは、ひょんな思い付きが大ヒットしました。全く想定外の話です。人生最終ラウンドにおいて、心おきないRUWVのOBメンバーと、長期にわたり、こんなスケールの大きい計画に参画出来て、本当に幸せであります。

そこで猛烈に思うことが二つあります。

その1) 物事は、そして人生はトライであること。

いろいろ思い付くことはあります。しかしなかなか実行に移すことは少ない。

「どうせ思う様に行かない。」「やっても同じ。」と思ってしまう。しかし実際はやるとやらないのとは断然違うのであります。たとえ予想通りに行かなくとも、その体験したことが、次の実行の成功率を高める。その積み重ねが大きく違ってくるのです。昔、勤めていたころ、素晴らしい上司が言った言葉を思い出します。排すべきは「N o p l a y N o e r r o r」と。

その2) 真の幸せは「達成感」であること。

正直、最後の花背~久多間のルートを一泊2日で完走し、最後の今津の川魚料理屋で反省会をやったとき、「これこそ人生最高」と正直思いました。長年あちこち行っているにも拘わらず、本当に幸せを感じたのです。

2年にわたって、あちこち偵察の上完走したのです。正しくその達成感が即幸せに繋がりました。何がそれほど魅力的だったのか。多分未知の部分が多く、それにいろいろルートの取り方が多様であったこと、それを選択して、読図力と感と経験を生かして突破したことにあると思います。

実は2~3年前、かつて息子が使っていた部屋を改造したとき、そこに有った本を殆ど捨てましたが、その中に「ビジネスマンの父親が息子に送る30の手紙」という本がありました。よくよく考えると、昔私が息子に贈った本でした。カナダの成功したビジネスマンが、実際に息子に贈った手紙が良く出来ていると出版され、あの城山三郎が翻訳したのです。そつとめくる中に、「真の幸せとは」という項目が目に残りました。要は「真の幸せは、達成感である」と書かれておりました。その時は、そんなものかなあという程度でしたが、今回北山クロストレイルを完走したとき正しく納得した訳です。

そんなこんなで北山クロストレイルは人生最終版で出会った最高の計画でした。それを終えて正直淋しい思いを致しておりますが、又何か新しい計画にトライしなきゃ。当面は例のE n j o y W a l k i n gであります。そして行く末は常に前向きに、そして倒れる時は前に倒れる。今はそんな思いであります。

雑感 「北山クロストレイル」 完歩して

S37年卒 森村 征男

10月15、16日と好天に恵まれ、ファイナルにふさわしいワンデリングでした。年なのか、日頃の不摂生なのか、太ももに痛みを感じながら歩き通すことが出来ました。同行の皆さんの気遣いに助けられ久多まで歩き、昨年以来のこのシリーズを探索を入れると約100キ近く完歩し、嬉しさと、終わりになったやや寂しさを感じつつ、また新たな「Enjoy walking!!」新企画も楽しみにしております。

そもそも、今回の「北山クロストレイル」は昨年4月の役員会にたまたま出席していた鎌田さんが、現役生より高島トレイルの赤坂山、三国山の新人歓迎ワンデリングの折に車の提供の依頼を聞いて、「そのくらい 歩けよ」と思いから考案され、本筋は現役生を対象に企画しましたが、残念ながら「現役生の参加ならず」のシリーズでした。

この「北山クロストレイル」とは、雲取二ノ谷に我が「立命ワンゲル小屋」があり、これを起点に西に愛宕山、東に比叡山を結ぶ横断、南に京都、北に小浜と云う昔から有名な鯖街道を縦断し、歩くゆえにクロストレイルとなったのです。

またこの企画に、ずっーとコース設定、宿の手配、HPや種々の雑務を一人こなしてくれた岩切さん、縦断コースでは車によるサポートを快く引き受けてくれた栗原 喜平さん、村田 潔さんには、誠に感謝致します。

今回を通し、北山の素晴らしさと奥深さに改めて楽しませてもらいました。極端ですが、北アルプスで天気が良ければ全く地図要らずと云えますが、北山では高度もなく木々に覆われ見通しは悪く、地図と磁石は手放せません。過って、AACKの今西錦司氏らがもっと不正確な5万分の1の地図とで北山を踏破していたことは、誠に大したものと考えます。

それに控え今は、北山も新規の林道や荒廃した林道が入り乱れ、時には伐採による不明瞭な道や台風による倒木、谷の荒れで、余儀なく迂回もせざるを得ない北山ですが、流石に長い峠道を上り詰め、多くの先人達が往き来していたであろう今も残り、私たちに心の安らぎを与える峠があった。茶呑峠 祖父谷峠 根来坂峠などでした。

最後に「北山クロストレイル」を楽しませてくれた皆さん、本当にありがとうございました。次なる新企画もよろしくお願いします。

北山トレイルを終わって

S37年卒 打越 啓佑

10月15日、16日の2日間を掛けて花背峠から久多まで歩き、昨年(2015年)の初夏からスタートした北山クロストレイルを終えました。

北山クロストレイルとは我々が勝手に名付けたコースであるが、北山を東西と南北のコースをクロスさせてトレイルしようとする計画である。

愛宕山から比叡山まで北山を東西に横断するルートは、昨年5回に分割して日帰り山行で完歩し、今年は一泊二日の山歩き2回、都合4日間で花背峠から小浜まで鯖街道をトレースした。

昨年は日帰りコースばかりだった為か毎回7～8名の参加者があった。今年は一泊二日の山行であった為か参加者はすくなくかった。

北山を歩いて感じた事は山が思った以上に荒廃していた事である。北山から隈笹が消えて、根の浅い樹木が倒木になっているのは山小屋付近でも多く見られるが、この現象は北山各地に見られ、特に植林された杉林では直径が50cmを超えるような大木が倒れているのを良く目にした。さらに、鹿が大繁殖して山野の植物を食い尽くし、森林の植生まで変っていた。こんな事をいくらボヤいても自然はもどらない。山は崩落し、登山道も旧街道も通行不能な場所はいたる所にあられた。

それでも、我々RUWV OBは、平均年令70才後半のメンバーで完歩したのである。

自然環境がどのように悪化しても、道が途切れていても山を歩く主体は我々である。地図とコンパスと永年鍛えた山感で計画したコースは、80%以上トレースが出来た。様々な困難に遭遇したが、最高年齢80歳の鎌田大先輩をはじめ、参加者が誰一人として怪我もなく、事故もなく終われた事はめでたしめでたしであった。

延べ9日間の山行であるが、エピソードも山ほどあるが、特筆すべきは今年の鯖街道一回目(久多～小浜)が終わった後で、ハリウッドムービー ロバートレッドフォード主演の日本語題名「ロングトレイルを」を見る機会があった事であろう。この映画は、鎌田先輩と森村氏、西尾氏と4名で観賞したのであるが、その内容は我々とほぼ同年齢の老人が2名でアメリカ東海岸のアパラチャ山脈を貫く延べ3500kmのロングトレイルに挑む話である。まさにワングル的な山行で大変面白く、映画の中に自己を発見する事しばしばであった。この映画に触発された鎌田氏は、今後共ワングル活動を連続的に実行すべしと年間計画を立案し仲間内に発表した。もし、この映画観賞がクロストレイルの最中でなかったら、これほど影響される事もなかったのではないかと思う。かく言う小生もいたく触発されているわけであるが、山歩きの後では必ず反省会と称して小宴会を開き、山の話やOB会の在り方、山小屋の管理等々を話し合った事を楽しい思い出である。

今、北山クロストレイルを完歩して、終わったと言う寂しさとらわれている。

最後に特に今年の鯖街道ルートでは栗原氏と村田氏には登山口までの送迎に車の手配をお願いし、心よく協力して戴き感謝している。北山の過疎地へ車両での送迎なければ、これほどスムーズに鯖街道のトレースは出来なかったろうと思う。

楽しかった北山トレイル

S48年卒 岩切 徹

この企画に参加した時、S35からS50までの15世代の差があるOBが、2年もかけてこの企画を実行するとは思ってもよらなかった。これもRUWVが大事にしている個人の自然観、自主性を重んじる心が繋がっていただからではなかろうか。また山小屋という拠点があり、ワークキャンプでの交流が有ったからではないかと思います。

参加者の構成を見れば、後期高齢者4名、残りは前期高齢者である。若い世代とは違い、無理も出来ない世代が自分の体力の限界に挑み、自分達で考え思いを馳せた企画を知恵を合わせて実行した成果です。実行中は、自分も先輩の年齢まで生きて、ここまで活動できるか自問しながらの活動でした。

この最中には、現役との読図勉強会も催した。初々しい現役会員との読図勉強会を開催し、懐かしさに触れた。第二回では、我々の本拠に近くて未踏のコースであった芹生峠から旧花背峠までのコースを歩くことが出来た。鎌田さんからは、「こんなコースをよう歩くは」と言われた難コースでした。こんな勉強会で読図の大切さを教えたにもかかわらず、トレイルでは大笑いした大失敗談も幾つかあります。

一番若いOBという事でコース案作りをしました。これだけ北山の地図を隅から隅まで熟読したのは初めてです。高齢者パーティーでコースも長い、体力の心配もしなくてはなりませんでした。

一つ一つのコースを決めるに当たって、お互いの自然観、コースに求めるものが違いなかなか苦労しました。発案者の意見を尊重して頂いたり、またみなさんの意見を取り入れたりしながらコースを確定して行きました。結果的には、鎌田さんが言われている様にありきたりのコースを歩いているみたいに思えますが、歩いたコースには、皆さんの思いが込められたコースとなっています。一つ一つの山行は、大したものではないが、こうして繋いでみると凄いことになっていた。

今思えば、苦労しましたが山行計画を立てるのは大変楽しかった。

私は、もともと高山志向ではありませんでしたので、この北山トレイルは自分にあった山行だったと思います。ますます里山が好きになりました。

昨年、伊那谷の飯島町に移住しました。広大な伊那谷の、南アルプス、中央アルプスが目の前に見える風光明媚な所です。毎日、この風景を眺めています。それよりも沢山ある里山に興味があります。北山の様に無残な開発をされた里山でなく、生活に密着した自然が残っている里山です。時間が取れば登ってみたいと思います。

一番高齢にも関わらず、困難な場面に出くわし厳しくなればなるほど燃えて、元気が出て来て、率先して先頭に立ち、道を切り開く鎌田さんにびっくり。パーティーをまとめて頂いた森村さん、豊富な知識で解説して頂いた打越さん、いつも先頭を歩いてペースを作ってくれた西尾さん、途中で体調を壊されて参加できなくなった木村さん、広瀬さん、一番若手OBの石橋さん、ありがとうございました。

そして、トレイルに参加できない時は、車でサポート頂いた栞原さん、村田さん、お二人のサポートがなければ縦断コースの完歩はありえませんでした。ありがとうございました。でも、2年もかけてよく歩き通しましたよね。私は、第4回をケガで不参加、完歩できず残念です。

最後に、この記録誌は、ホームページに掲載した文章を纏めたものです。全体の文書構成を揃えた方が良かったかもしれませんが、その時の思いで記録したものですので、そのままで良いではないかと思いあえて統一しませんでした。

次は、皆さんで自分たちの北山クロストレイルを見つけてください。

北山クロストレイル 記録誌
(2015. 5. 30～2016. 10. 16)

発行日 2017年1月1日

原稿作成者

S35卒 鎌田 克則
S37卒 森村 征男
S37卒 打越 啓佑
S39卒 木村 恒夫
S46卒 栗原 喜平
S46卒 広瀬 孝慈
S47卒 西尾 憲次
S47卒 村田 潔
S48卒 岩切 徹
S50卒 石橋 光正

編集者 S48卒 岩切 徹

所属 立命館大学ワンダーフォーゲルOB会